1001
8

印度史

国立国会図書館　　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

特1001-8

印度史 六巻 三月録

○第廿一編 瑪塔剌及孟買（ボンベー）ノ記事 一千七百六十一年ヨリ七十二年ニ至

○第廿二編 彼士丁克（ハスチングス）ノ執権ヨリ佛蘭士（フランス）ノ帰朝ニ至

○第廿三編

○英人瑪剌（マラタ）ト戦フ

○第廿四編

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

○瑪格剌ノ記 自千七百七十年
至千七百八十年
○廿五編
○瑪格剌ノ記 自千七百八十年
至八十四年
○廿六編
○大審院 ○智徳晋院 ○彼士丁克ノ解
職 ○英京ノ日誌
○廿七編
○洛馬奇龍兎士
○廿八編
○奇龍兎士ノ政事 ○買蘇甫戰
○財政及法令ノ改正

○晋君ノ擧動
○廿九編
○索呢我消呢ノ執權
○三十編
○洛馬維士列ノ執權 ○最後ノ買蘇甫戰

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

○第二十一編

○馬哈剌兒（マハラル）至（イタル）テ孟買（ボンベイ）ノ記事 一千七百六十一年ヨリ七十二年

前編詳カニ安頴地方ノ沿革ヲ記レテ遺ス所ナヲ以テ此編ニ於テ徳干（デッカン）別内ノ事故及ヒ瑪剌他（マラタ）主撒哇支（シバジー）ノ之（コレ）ニ起（オコ）リ而シテ海徳兒（ハイダル）、洋黎（マイソール）ノ二主等互ニ離合改守或ハ擅訴反覆スル顛末ヲ載スベシ一千七百六十一年佛人ノ権ヲ失ヒ絶ツニ及ンデ英人ノ孤注ヲ一擲（ホネロドアル）、摩哈婆亜（マハラシア）ヲ併呑（ヘイトン）シテ加児拿的（カルナチック）ノ君

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

任ニ即ケリ當時ノ諸酋主中柔懦ニシテ謀ナキ
者蓋シ摩哈婆（マハナン）亜黎ニ若ハナシ且ツ其兵ヲ皆
烏合ノ無頼七余ノ徒ニシテ悉ク支給ヲ英商社
ニ仰キ商社ヲレテ其虐ニ入ヲ管スルノ権ヲ保有セ
スシテ徒ラニ五万英方里ノ大国ヲ衛護スルノ
費用ニ堪ヘサラシム此国ニ二十年以来紀綱廃頽
紀律相違（背）キ沿レド将ニ積弊ニ仆レントスル而シ
摩哈婆亜黎ノ任ニ即クヤ浪費濫用国力コレ
カ為ニ殊ニ空竭ニ帰ス因テ北常ノ高利ヲ附シテ
新債ヲ鳴咯喇（ドラス）ニ起スニ至ル一千七百
六十二年是ヨリ国
事愈ゝ替レテ英人ノ擅益盛ナリ鳴咯喇（ドラス）商行長ソ
ノ采主ノ報償トシテ五十咯克（ラク）ヲ要求ス摩哈婆
亜黎ニ於テスルニ国帑空乏ヲ以テス高行長乃チ猛悪シ
テ諸酋主ノ郡邑ヲ剽掠シ以テ己ノ要求ニ応セ
シム一千七百六十三年摩哈婆亜黎自ラ将トシ
テ開約（コンヂョン）ヲ履シ二十四咯克（ラク）ヲ振メテ帰ル既ニシ
テ英佛和ヲ講シ巴黎府ニ訂盟ス其誓約ニ依テ
佛人ハ盡ク印度旧領ヲ復シ英人ノ要求ニ従テ
摩哈婆亜黎ヲ加倪拿的（カナヂク）侯タリ（職柱（ジャット）巴（バット）試統ノ徳）
千都督メンヲ詔可ス是ヨリ先十八月尼来亜黎
ニ（ガ）

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

其兄擲拉把(ボンベイ)城(ボンベイ)ヲ奪シ自ラ
ル此ニ至テ英仏共ニ其兄ヲ立テント欲スルヲ
聞キ遂ニ之ヲ救ス
一千七百六十五年第八月十二日蒙帝莫臥兒(ムガル)
ニ勅シテ三列蝦税ヲ領収スルヲ許シ且ツ加兒(ベンガル)
孟的倹(ベンガル)ヲマテ徳干都督ニ隷属スルコトナカラシ
メ北方数郡ヲ割テ商社ニ賜フ其地格洛漫徳(カルカッタ)海
岸ニ在リ初メ仏人ニ属シ後勃士(ブリトン)ノ精兵ハ多クノ此
ニ出デ仏人甚ダ之ヲ便トス勃士ノ本国ニ帰ル
ヤ忽チ英将福兒徳(フォルド)ノ略取スル所トナル加泥葉亜(カルナータク)

嘆此土地ヲマテ英領タラシムルヲ欲セズ英人
将ニ軍ヲ発シテ之ヲ攻セントスルヲ聞キ吾嘗
ニ兵ヲ出シテ英軍ヲ塵殺スベシト宣言ス是時
ニ當リテ加兒(ベンガル)風鳴路剌(トルコ)ノ政ヲ総ブ加兒(ベンガル)初メ
商社ニ属スル僧侶ノ一人タリソノ後帰俗シテ
政事ニ勤勉シ遂ニ富厚ヲ致ス嘗テ本国ニ還ル
ヤ功ヲマテ爵列侯ニ除セラル然ルニ今ハ則チ
議院ト共ニ怯懦安ヲ偷ミ将校ニ命シテ兵ヲ動
クスコトヲ得ザラシメ自テ海徳把(ポンディシェリ)ニ往テ和議
ヲ講ス一千七百六十六年其條款ニ曰ク英商社ハ徳干都

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

督ニ隷属シ年七路克ヲ貢シテ地郡ヲ領スルヲ得ベシト夫レ印度大主后帝勅ノ地ヲ領スルガ為ニ甘ンジテ此恥辱ヲ忍ビ督ノ臣属トナルハ就中ニ於テ大辱ヲ取リ恩拙ヲ表シテ又加フルニ泥撲亜黎直ニ之ヲ海徳把巴黎ヲ攻撃スルニ用ユルヲ熟知シナガラ大政府ヲ賛助スルヲ名トシテ歩兵二大隊大砲六門ヲ供スルヿヲ約シ商社ヲシテ空シク徳千別ノ濱糸タル乱経中ニ千輿スル憂ヲ取テシム

第十七世紀ノ間ニ微賤ヨリ起テ一王国ヲ印度ニ創立スル者之人アリ今其一雄海徳亜黎ノ経歴ヲ記セン賈蘇甫国ハ初メ葡萄牙堡帝国ノ一別ナリ一千五百六十四年帝国ノ衰ヘ賈蘇甫別ル〻テ一梵主ニ属スル甫後子孫漸リ版図ヲ広メ屢〻瑪剌他人ノ侵略ニ遇フト雖モ尚ホ国脈ヲ二世紀ノ久シキニ維持シ竟ニ其臣海徳亜黎ノ為メニ簒奪セラル海徳亜黎ノ先世封諾伯ヨリ陸地保ノ長官トナリ陸軍小隊長ヲ歴任ス其父嘗テ賈蘇甫ニ徙住ス其父嘗テ海徳亜黎一千七百有二年ヲ以テ生レ四十七歳ニ至ルマデ名声ヲ博セシモ甚シ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

ズ一千七百四十九年英佛人徳干ヲ爭フノ際
（ヴァルタン）
（ヴァルタン）
想潛黎ノ戰ニ在リテ始メテ買蘇爾ノ監國某ノ
爲ニ計ヲ畫リ頻カニ擢テレテ上將軍トナ
ルヲ得テ事ヲ詭詐ニ任シテ苟利ヲ務
メ非常ノ權謀術數ヲ以テ專次ニ國家ノ大柄ヲ
欲メ尋テ軍旅ヲ專制スルノ地位ニ至ルヲ以
テ其君主ニ迫テ禪ヲ受ケ之ニ年給若干ヲ約ス
（ルイ）
未タ幾ナラズ事ニ託シテ年給ヲ廢ス倫徳、亜黎
人トナリ勇武ニシテ兵法ニ精シク又政理ニ長
ズ逝レル時
（ルイ）
（ヴァロア）
（ルイ）
（ヴァロア）
（ルイ）
（ヴァロア）

瑪剌他王巴児拉日、拉爾巴諫德ノ敢ヲ図キ憂憤
病ヲ嗟レテ死レ其子摩桑、拉爾巴ニ即リ六千一百十一年徳干都督此挨ニ来ビテ先君ノ
割地ヲ回復セント欲又是ニ於テ挪威堡ノ君主
貧士列トカヲ合セ進ミテ捕拿ヲ剿掠シ其大半
テ焼ク六千一百十二年瑪剌他王ノ叔父拉爾保巴兵ニ
将トシテ撃テ海徳把巴ヲ挨キ又テ前日ノ役ニ
報ズ遂ニ都督ノ師ト額多維黎ノ濱ニ戦フ拉克
保巴使ヲ那克堡王ニ遣レ歳毎ニ三十二洛克ヲ
納レテ之ヲ誘ヒフ戦方ニ
戦方ニ闌ナル中那克堡ノ軍丈ヲ剿ニシテ瑪剌
他人ヲ挨フ都督ノ師大ニ敗ル殺傷算ナシ都督
貧士列ヲ追テ而シテ亦拉爾保巴モ納ニ皆テ都
督ニ帰スルヲ怨ム是ニ於テ共ニ兵ヲ合セテ那
克堡ヲ襲ヒ其詐術ヲ以テ得ン所ノ地ノ大半ヲ
挨ク六千七百十七年
瑪剌他人初メ賓薇爾ヲ視テ外痛トシ未タ嘗テ
侵伐ヲ加ヘズ以為テリ姑テ異日ノ剿掠ニ備ヘント欲
シヨリ富強頓ニ進ミ兵衆六万半ハ精練ノ兵千

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

リト内ノ内閣重臣等大ニ驚キ
亜ニ拉打セントス議定シ兵ヲ発シテ之ヲ攻ノ海
徳児ノ軍敗績ス明年一千七百五年瑪剌佗主親テ将
トシテ賢儀爾ヲ撃テ又大ニ之ヲ破リ敵兵一萬
餘人ヲ殺ス海徳児乃チ侵地ノ過半ヲ還附シ且
年貢三十二洛克ヲ約シテ成ヲ求ム海徳児此損
失ヲ償ント欲シ兵ヲ率テ瑪拉巴沿海ノ地ヲ侵
ス其地未ダ清テ回教人ノ征服ニ遇ハズ諸酋長
力ヲ極メテ防戦スト雖モ終ニ寡メニ破テレ買
蘇甫ノ旗幟始メテ喝黎格ノ塁上ニ飄飄セリ當
時喝黎格ノ君主尚ホ二百餘年前陽漕布兒ノ
時ノ如ク撒摸林ノ尊称ヲ稱スト雖モ瑪剌佗主
徳干都督ト合従シ海徳児ヲ攻ム時ニ都督一千七百
境ヲ侵ス時ニ都督一千七百六十六年十一月十
二日ノ盟約ニ依テ援兵ヲ喝黎格ニ徴ス商行ニ徴ス商
行已ヲ得ズ軍時遽迫ヲレテ兵ヲ率テ二國ノ
軍ニ會レ共ニ買蘇爾ヲ攻メレ瑪剌佗主都督
ヲ敗キ一千七百六十七年第一月城壮的拿川ヲ
渉リ先ツ剽掠騎ヲ発チテ買
レム海徳児喝黎格ヨリ還テ之ヲ防ク瑪剌佗主

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

使ヲ遣ハシ之ニ言ハシメテ曰ク三十洛克（ラック）ヲ予ヘヨ吾将ニ引キ帰ラントスト海徳児（ドイル）之ヲ聞テ之ニ従フヲ
ラザルヲ見テ之ニ従フ
英将斯綏士（スレスト）都督ノ軍ニ虜スルヤ其反覆ノ甚シキ将ニ海徳児ト謀ヲ通ゼントスルヲ見ルヲ以テ猝ニ兵ヲ引テ帰リ加児拿的（カルナチ）ノ
ヲ守ラシム海徳児二十洛克ヲ献シ且年貢六洛克ヲ約シテ都督ト合従スニ国ノ酋酋四萬二千歩ニ
萬八千大砲百門ト称シ勢ヲ壮ニ倣ニ剣手三十人銃手五千八百大砲十六門ヲ
以テ之ヲ防キ再戦皆捷ケ大砲六十四門ヲ獲タリ千七百十七年此際ニ於テ海徳児ノ長子秩禮（チャールス）時ニ年甫テ十六
兵五千ヲ率テ忽然馬拉塔（マラッタ）剌ニ侵入ス紳士ノ郊外ニ住スル者盡ク其掠奪スル所トナレリ孟
加拉（ベンガル）商行此警ヲ聞キ将軍銅智（クライブ）ヲシテ海路ヨリ入テ都督ノ別部ヲ侵サシム銅智過ル所剽掠シ
進テ孳龍牙（ハリアル）ニ至ル海徳児（ドイル）ノ邑ヲ距ル十四里都督コレヲ聞テ大ニ懼レ果シテ海児徳ヲ
フ
都督就ニ敗ヲ二戦ニ取リ北方ノ諸郡現ニ英兵

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

ノ為メニ占據セラレ居城モ亦将ニ陥ラントス
ルニ迫リ所謂窮鳥ノ勢ナレバ商行長已ムヲ
講和ヲ求ムルニ際シ経今ヒ彼ヲ要シテ自家隨
意ノ條款ニ従ハシメムル能ハザルヲ
條約ヲ恢復スベキニ大ニ之ニ反シ商議七週日
ヲ経テ漸ク公司ノ史上ヲ汚スニ堪ヘル新條約
ヲ締結セリ一千七百十八年神メ公司ハ聶離帝ノ勅命
ヲ以テ北部数郡ヲ賜ヒ世々金ノ聶離廷及其租
税官ノ要求ヲ免ルルノ特許ヲ得タリ然ルニ此
新約ニ因テ北郡ヲ領スル報償トシテ年貢ヲ都
督ニ供スベシト決シ商ニ英人ヲシテ都督ノ衆
巴撒洛篤、武院ノ世ヲ終ルマデ其混隊児郡ヲ古
有スルヲ得ザラシムル又此條約書ニ海徳児、阿
黎ヲ称シテ敵臣或ハ裏窩ノ賊トシ英人ハ其加
児拿納、波拉瀬多(頽倫未ノ高原ノ名)
都督ニ其歳入十分ノ一ヲ抜キ年貢七路克ヲ
古有スベキヲ載ス瑪喇危ニ供シテ之ヲ
竺廿ノ関係ナキ者ヲ瑪喇危人ノ如キハ此締盟ニ
門ヲ出シテ當時尤モ反覆変詐ノ名ヲ得タル都
督ノ軍役ヲ助クルヲ約シ以テ大ニ公司ノ侵ヲ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

釀成シタリ實ニ把爾倫ノ如キハ世間絶無ノ怪
且愚ナル者ト謂フベシ公司林院ニ於テ大ニ怒リ
之ヲ責テ曰林院ハ北郎ノ條款ニ就テ決等ノ所
爲ヲ厭惡セサルヲ得ズ且ツ締盟又永決事巨萬
ノ冨ヲ積ムヲ見レバ世評ノ所謂和議契約ヲマ
テ毎ニ公利ヲ失スルハ其事ヲ私利ヲ營ムニ由
ノ語甚タ允當ナリト大林院ノ閣知スル所ニ
過ズト雖モ當時瑪路剌向行ニ異ナラズシテ其官
ニ沈淪スルヿ孟加拉向行ニ遠征隊ヲ派シテ孟買向行ノ
吏ノ怙券ナルハ遥ニ之ニ超越スト云フ

海德兒人ノ都督ト通シテ將ニ己ヲ謀ントスル
ヲ知ル乃チ軍旅ヲ備ヘ攻戰ノ備ヲ爲スト訖ニ
レテ孟買向行ノ遠征隊孟買ニ蘇尓ノ所ヲ破テ其
救艦ヲ收チ瑪拉巴沿岸ノ數城ヲ拔リ海德兒直
ニ擊テ之ヲ優シ兵ヲ刀テ其西辺ノ敵ヲ拒ガ瑪
塔剌向行委員二人ヲ發シテ其軍ヲ監セシテ
ム矣メ都督此ニ使ニ資給セント約シ又倉言シ
テ知ラザル者ノ如クス軍事ニレガ爲ニ煩ん沮
礙スル処アリ英將斯密士ノ
内一半ヲ躁躍シ其要害ノ城寨數箇ヲ拔リ海德

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

児深ク瑪剌他（マラタ）人ノ此陳ニ来センコヲ恐レ瑪
徳（マドラス）ノ地ト那格克（ナガポア）ヲ割テ成ル
勝ヲ恃テ要求スル処甚タ過多ナリ海徳児（ポンデシエリ）應ズ
ルニ堪ヘズ因テ死戦ヲ以テ自ラ期ス英将斯密
壮ヲ舎テリ要求甚タ当ヲ失シ適世ノ嗤笑ヲ来
スニ足ルト因テ力ヲ極メテ之ヲ争フ瑪塔喇議
院悦ビス招還シテ他将ヲ遣ン是ニ於テ英軍ノ
潮勢俄然トシテ変転ス我モナリ漢洛（カルカッタ）ノ再解
ケ海徳児其憤チノ勇膽ト凡
七フ所ノ諸城ヲ復シ直ニ那格（ナガポア）ニ下リ南ノ

方冊（メソポタミア）ヲ奪ヒ遂ニ瑪塔喇ニ向
テ北進スル商行此警ヲ聞テ狼狽為ス所ヲ知ラズ
乃チ使ヲ遣ハシテ和ヲ乞フ海徳児許サズ休戦
四十日ノ間ヲ以テ海徳児已ヲ得スンノ二十日
ヲ許ス一千七百七年ニ至テ海徳児掠奪シテ進ム
商行斯密之ヲ防ガシム斯密
士ノ軍進テ瑪塔喇ヲ距ル一百四十里ノ処ニ
至ル海徳児自ラ計ルテリ之ト戦フヲ好マス
ヨリ長駆シ速ニ地下ノ盟ヲ為シテ此役ヲ結ブニ
如カズト是ニ於テ其精騎六千ヲ率ヒ五日半日ヲ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

ハテ進行スルヿ一百三十里忽チ瑪洛喇ヲ距ル
ヿ僅ニ四里ナル聖梁滅ノ地ニ庫レ議院ニ言ハ
ヲ待テ曰急ニ斯密士ノ追躡ヲ禁シ向行中自テ
吾陣中ニ就テ和約ヲ結ブベシト時ニ濶普列把
焼ニ付テ向行長久ノ勝勢ヲ占
メ意ニ隨テ條款ヲ制スル第四月三日濶普列自ラ
海徳児
敵営ニ就テ和約ヲ定メ其要點ハ互ニ侵地ヲ還
スベシ海徳児徳干別何レノ敵難ニ遇フト雖モ
英人必ス兵ヲ出シテ之ヲ救フベシト謂フニア
リ是ヲ瑪洛喇向行公司ヲ徳干ノ兵乱ニ干渉セ
シメン第三回ノ失措トス是ニ由テ英人ハ盡ク
往来ノ侵地ト是ニ支出スル所ノ費ト中就ノ英
兵ノ減トヲ先ナラハテ第二買蘇爾戦ノ局ヲ結
ベリ

海徳児亜黎就ニ瑪洛喇ト講和シ其被援ヲ時ニ
デ敵テ瑪剌他ノ年貢ヲ絶チ兵ヲ発シテ其別郡
ヲ侵スヿ千七百千七十年瑪剌他主大ニ怒リ大軍ヲ以テ
入敵シ過ル所剽掠ス城塁皆仆ヲ望テ降ル海徳
児懼レテ成ヲ求メ瑪剌他主一克洛児ヲ要求ス
海徳児應ズル能ハズ乃チ二萬五千騎大砲四十

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

門ヲ入テ進テ海勇頓達ニ至ル瑪剌他兵形勝ヲ
占メ砲撃シテ休マズ海徳児防戦スル丁八日霧
ナニ夜ニ乗シテ塞林巴祖(セリンガパメイ)ヲ距(ヘダ)ツル寄甫頓(ジェフトン)ヲ距ル二十二里ニ遁ル
ノ軍麾殺ヲ免カレメルハ僅ニ汲々スルニ由リ瑪剌他兵隊ニ買蘇甫城(ダイソフ)ヲ
圍ム海徳児防禦スル丁五週日使ヲ遣シ盟約ニ
伝テ救ヲ瑪塔剌(マトラス)ニ求ム一千七百十一年商行長及ヒ議
員等皆ナ寄テ公司ノ寄メニ榮利ヲ得ルハ海
徳児ヲ救フノ一挙ニアリト将ニ兵ヲ發シテ之
ニ赴カントス是ヨリ先英国大宰相ハ加児拿的(カルナタク)
侯ノ術中ニ陥リ戦林後塞(シンジー)ヲ欽差大使ニ任シテ
加児拿的ノ廷ニ発遣ス是ニ至テ林多塞厳命ヲ
以テ瑪塔剌ノ議決ヲ破リテ擧行スルヲ得ザラ
シム此レ蓋シ加児拿的侯ノ意ニ出ツ是ヨリ侯
益瑪塔剌政府ヲ軽シ屢ニ孚テ林多塞ニ迫リ瑪塔
剌ヲシテ瑪剌他ニ結バシムル海徳児既ニ英人ノ
援ヲ失ヒ自ラ支フル能ハズ因テ償金三十六
洛克(ラク)年貢十四洛克ヲ納レ且大ニ地ヲ割テ敵ヲ
求ム一千七百七十二年是ニ打テ買蘇甫ノ版図大ニ擴ん

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

第十八世紀ノ始メニ比スレバ更ニ衰サストモ
フ梅徳児（ハイドル）深ノ英人ノ約ニ拠リ
ヲ必ニ是後十年大ニ復讐ノ挙アリ」
巴勃徳（パブル）ノ戦ニ破ラレ擲都斯坦（スタン）ヲ去ンノ後八年
瑪喇他（マラッタ）人其旧土ヲ復セント欲スレ歩騎銃手ヲ以ソ
十餘萬ヲ率ヒテ先ツ剽掠ノ業ニ従フ一千七百十九年
其兵手ニ打テ羅士普陀那（ラジプタナ）ヲ伐チ十浴克（ジョドプル）ヲ掠メ
轉ジテ濱島多（ラジャムンドリ）種ヲ侵シテ又六十五浴克ヲ得明
年洛比児（ラホール）ノ境ヲ蹂躙（蹂躙ハ踏ミ躙ルノ意）ス此時ニ当リ英国ノ総督
ノ川ノ間ニアリ）ノ全境ヲ暴掠シ梅雨ノ候ニ近

ツクヲ以テ始メテ離ニ退陣ス聶離帝一千七百
六十五年克莱伯（クライブ）ト絣盟セシヨリ以来瑚爾（ムガル）
阿把哈（アバカン）巴（ハン）ノ歳入ト年給若干ヲ受ケテ静カニ阿
把哈巴ニ廃居ス頑離府及ビ其近郷ノ地尚ホ帝
領ニ属スト雖モ其実ハ奴（ドゥ）伯衆羅（ボンベイ）ノ専治スル
所トナリ帝阻（ムガル）又其子撒比（ザビル）又奴（ドゥ）
権勢ヲ妖復シ旧都ニ還（帰）ラントシ
モ亦帝権ヲ既倒ニ回復シ其名威ヲ藉テ自ラ逞
フセント欲ス甲谷陀（カルカッタ）議院此謀ノ危険ナルヲ察
シ諫止スレドモ聴カズ遂ニ汗ヲシテ帝都ヲ称セ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

レメ兵ヲマテ之ヲ擁護ス時ニ一千七百七十年
第十二月二十五日ナリ
明年瑪剌佗人（マラッタ）復タ洛比児混徳ニ敵ス諸酋長乃
チ故ヲ関泥侯（カーテ）ニ乞フ竹除ニ関係暖昧（ママ）ノ図
瞽令明記スルニ由ナシ瑪剌佗人酋長ニ言
ハレメテ曰ク償金四十「洛克」（ラク）ヲ出スカ若クハ関泥
侯ノ保証ヲマテ同額ノ契書ヲ致サバ兵ヲ罷メ
ント洛比児混徳人乃チ契書ヲ出シテ成ヲ求ム
既ニシテ其一酋巴賛士（ハライズ）、洛横瀉（モッチ）ナル者将リ五「洛
克」ヲ出スノミ其餘ハ未ダ調辮（ととのえ）セズ瑪剌佗人因
テ是ニ言ハレメテ曰ク吾トカヲ俱セテ関泥ヲ撃
メバ當ニ勝略ノ地半ヲ畀ヘ且券書ノ残額ヲ免
セントス洛比児混徳人聴カズ益、関泥侯ニ結ヒ休
戚ヲ約メレ「ヲ誓フ是ニ於テ瑪剌佗人連ニ兵
ヲ発シテ之ヲ撃ツ洛比児混徳関泥及ビ英ノ軍
力ヲ合セテ防戦ス勝敗未ダ決セズ適、瑪剌佗王
摩衆（マドラス）祖剌（ナ）新ニ補拿庵（プナ）ニ死シ嗣君更ニ伽児拿的（カルナタク）
ヲ戕ツノ志アリ因テ盡ク其兵ノ興都斯坦（ヒンドスタン）ニ在
ル者ヲ召還ス瑪剌佗ノ軍乃チ之勝ニ獲ル所ノ
掠物ヲ載セテ洛比児混徳ヲ去ル一千七百七
十三年是ヨ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

リ先ヲ講ジ帝国（マラタ）瑪剌佗人ノ横恣且貪婪ナルニ堪ヘ
ズ兵ヲ発シテ之ヲ誅滅スルニ戦之ガ為ニ破ラレ
帝出テ、降リ瑪剌佗ノ意ニ随フテ盟約ヲ結ス
ブ」
印度公司ハ一個ノ私立商社ヲ以テ土地人民ノ
英国ニ倍蓰スル大国ノ主権ヲ握リ戦ヲ宣シ和
ヲ講ジ人主ヲ廃立シ教国ノ財政ヲ管理スル等
尠外ノ大事ニ従事シテ其本業ヲ顧ミルニ暇ア
ラズ印度派出ノ社員ハ毎月三四百「児弗」（ピー）ノ俸給
ヲ得食禄ヲ以テ巨万ノ富ヲ致セバ輒チ帰国シ
テ商社ヲ設置スル者年一年ヨリモ夥シ英京ノ
人其不正ト壓制トヲ逞フシテ頓ニ富有ヲ致
スヲ悪ミ帰朝ノ人ヲ「インヂアン、ナボブ」（印度侯）ノ義
ト称シ共ニ歯スルヲ恥ヂ之ヲ剏場ニ演
シテ其醜態ヲ表スルニ至レル能動本院ニ於
テ制定スル所ノ規程ハ本ト貿易ニ通スト雖モ
以テ一国ヲ治御スベカラズ故ヲ以テ終ニ非常
ノ変害ヲ生ゼリ斯ノ故ニ当（ダイレクトル）局ノ便ヲ予フル印度在
勤ノ職ハ専ラ主司ノ属シテ主司ハ銀主（プロプリエトル）
等ノ投票ヲ以テ選定スルヲ創トス故ニ此投票

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

ニ非常ノ声價ヲ得一千七百七十一年當時頭
冨厚ニシテ且勢力ヲ有スル印度航海ノ水手等
十五「ラクス」「ラクス」ヲ出シテ投票之ニ百圓相當ノ權ヲ購ヒ
得ル等總テ東印度公司ハ醜態獸行ノ劇場トナ
リ龍動水院ハ呻吟地獄ノ如ク衆院ト均シク專制ニ
ヨレテ見ル可ニ堪ヘザラシメ是ニ於テ輿論藉々
之ヲ攻テ已マズ終ニ議事院ノ衆議ニ因テ委員
ヲ派シテ之ヲ案按スル財政甚メ紊乱筭ニ再之ノ
審査ヲ經テ其情由始メテ明カナリ要スルニ公
司ノ金庫空乏ヲ致ス所以ハ偏ニ印度派出諸員ノ

蓋シ額ニ依レリ其歳入ニ「格」「洛」「呢」半ノ巨額ヲ擁シ
テ負債総計英國ニ一「格」「洛」「呢」ト四分一強甲谷佗
ニ九九一「格」「洛」「呢」トス斯リ珀ト公司瓦解ノ時ニ
臨ンデ銀主等一割二分五厘ノ價度ヲ以テ利銀
ヲ分配セント主張スルヲ以テ用度殊ニ逕リ記ニ
十分ノ債ヲ國主銀行ニ負ヒ盡ク之ヲ盡ルヲ更ニ英廷ニ
向テ微稅寮ノ準備銭一百万元ヲ借リ以テ破産
ヲ救ハント請フ内閣此議ヲ議事院ニ下ス一千七
百七十二年議事院乃チ委員ヲ選任シテ其證券書類ヲ
聚拾スルニ至テ從來官府行黨腐ノ以テ國名ヲ印

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

度ニ汚レメル丁始メテ露ハル議事院乃チ直チ
ニ印度ノ政勢ヲ挙ケテ自ラ有ツレ又テ公司ノ
干渉ヲ禁止ス公司其特許権ヲ破棄スルノ不正
ヲ論争シテ敢テ命ヲ奉ゼズ迫レ共圓ノ憲
スル処如何トモスル能ハズ遂ニ公論ニ因テ内
閣ノ處分ニ委セラル内閣其規程ヲ改拵シ盡ク
密撃ヲ除キ主司退撃ノ期一年ヲ四年ト改メ銀
主ノ内一千二百人ヲ除キ其投票数ハ株ノ多
サヲ論ゼズ四圓ヲ以テ定限トシ過加拉ノ商行
長ヲ総督ト称シ年俸二洛克半議院ヲ置キ其吏
員モテ四人各〻年俸一洛克大審院ヲ設ケ審判長
一人副二人其制一ニ西門斯的府ノ裁判所ニ視
テ此改正令ヲ名ケテ「ギニレーチング、アクト」
トイフセナセ年此令ハ大ニ内國ノ治御上ニ於
テ旧弊ヲ一洗スト雖モ印度ノ英権ハ之ガ為ニ
始ンド地ニ墜メリ」

○明廿二年編

○彼士丁克ノ執権ヨリ帰朝ニ至

改正令ノ始テ出ルヤ華令、彼士丁克首トシテ印

度総督ニ任セラル彼士丁(ペンティング)ハ一千七百五十六年公司書記官ヲ以テ印(インド)ニ赴任セシヨリ七年ノ間絹帛棉布ヲ評價シ商品行李ヲ記載スルニ従事スル後チ孟拉(ベンガル)戰後ノ乱顕ハレ克莱(クライブ)始メテ摸児士陀巴(モルスタバ)府ノ駐劄公使トス一千七百六十年此任ハ當時極重要ノ職メリ其後二年順次ヲ以テ帰議院ニ入ル徙昏(コッテン)ノ和破ルヽ時ニ當テ卓越正ヲ守リ侃々説妙其同僚ノ不正ヲ責メテ已マス遂ニ是ヲ以テ容レラレズ印度ニ在ル丁十五年ニシテ帰ル時ニ同船ノ満士答徳(マンスフィールド)ハ五十路克(ラックノウ)ヲ携帯スルノ世評アリト雖モ彼士丁(ペンティング)克ハ則懐中蓄フル所数許モナシトカフ其後数年復タ公司ノ任用スル所トナリ二等議員ヲ以テ瑪塔剌(マドラス)ニ往キ頗ブル勤勉ノ才能ヲ以テ顕ハレ遂ニ英領印度総督ノ任ヲ得ルニ至レリ其視事ノ始メニ當テ政務紛乱殆ド着手ノ方法ニ苦シム者アリ克莱(クライブ)始メ都督ノ政事ニ干渉シ協力同心ノ制ヲ立テ政略ノ得計ト思惟シタルニ至ル其政府ノ要務タル理財ハ專ラ梵吏ノ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

千ニ帰シ英吏ハ徒ラニ其主宰ノ名ヲ擁シテ梵吏及土豪等貪婪公益ヲ顧ミズ治下人民ヲ壓迫スルニ至テザル可ケンヤ（マドラス）瑪絡剌政庁監察吏ヲ派シテ此撃ヲ匡正セシムルヲ務メタルニ監察吏等民俗言語及ビ地價ニ通ゼザルヲマヌテ及テ貪吏ノ奇貨トナリ多少ノ禍害ヲ助長スルノミ公司本院乃チ印度派出ノ主司ヲシテ専ラ租税（雑税）ノ徴収及ビ其處分ヲ擔任セシメントス欲スレドモ其施行ノ難キニ困ムノ因テ之ヲ彼士丁克（ヘスチングス）ニ委スト彼士丁克モ難色ナリ其憤行ノ果断ヲマヌテ之ニ従事シ議院ニ附シテ理財ノ新制ヲ創定シ特ニ委員ヲ遣テ其民事刑事ヲ掌トラシメ（摸吧士他（ボンベー）ノ大藏省ヲ甲谷他（カルカッタ）ニ移シ是時ヨリ甲谷他ハ（加拉）別ノ首府トナル）法學士ノ助力ヲ藉ラズシテ自ラ簡易ナル法律ヲ制定スル（時）ノ改革ヲ僅ニ六閲月ノ間ニ完成シタリ一千七百七十七年

湖泥侯（カーテ）洛比昆德（ロヒコンド）ニ采邑ヲ賜ハル

瀦斯祖（ヨーク）ヲ去ル後英ナル瑪剌他（マラッタ）人興リ

丁克（チレングス）ニ請テ曰洛比昆德（ロヒルコンド）人暫ニ瑪剌他ノ難ニ陥

シ吾ニ四十洛克ヲ約シテ救ヲ求ム吾乃チ素ヨリ
ノ兵ト共ニ之ヲ救フ瑪剌佗兵既ニ退ケバ財チ
約ニ背キテ前額ヲ殺サズ吾ニ還テ其罪ヲ問ハン
ト欲ス貴国又幸ニ援兵ヲ假サバ請フ四十洛克
ヲ献シ俾セテ毎月二洛克餘ヲ出シテ従役ノ実
兵ニ給セント是時ニ當テ公司本院方ニ負債ニ
迫ラレ毎船ニ託シテ助力ヲ議セ請求スト雖シ
テ甲洛佗政府モ亦一格洛児ノ負債ニ困シ本
院ノ要求ニ應スル能ハズ獨リ孤泥侯土地ヲ要スル
ノ懇心ヲ以テ彼士打克ノ財貨ヲ要スルノ事機

ニ投ズ洛叱児徳安ンゾ免ルヽヲ得シヤ彼士
丁克自ラス吉ノ侯ノ言フ所甚ダ正シ洛叱児昆
徳恩義ニ背ク其罪當ニ誅スベシ正ヲ援ケテ曲
ヲ攻ムハ義挙ナリ而シテ公司ノ神益ヲ増スベ
シト因テ侯ノ請ニ従フ
彼士丁克親ラ孤泥侯ト泊耶
剌及ビ阿把哈巴ヲ侯ニ還予
ス七十七年二郎ハ
ホト闍泥ニ居ス克莱伯之ヲ
帝敗レテ瑪剌佗ニ割リ所ナ
徳人ニ言ハシメテ曰貴國契約スル所ノ金額吾

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

コレヲ馬剌佗人ニ辨償ス故ニ彼兵ヲ列テ未ダ
今宜ク若干ノ金額ヲ吾ニ還辨スベシト酋長吧
噴吐、洛摸篤對テ曰ク果シテ貴國ノ辨償ヲ奉還セザランヤ
信ナラシメバ敢テ貴ヲ煩ハシ兵ヲ出サン然レドモ馬剌佗兵ノ去ルハ
國ノ力ニアラズト雖モ和據ヲモテ阿泥侯ニ格
洛吧兒ヲ要求ス洛吧兒昆德ノ
兵四萬ヲ率ヰ出戰フ洛吧兒
貴主其之子ト共ニ之ニ死シ餘衆盡ク散ズ七千
七十四年、阿泥侯兵ヲ縦テ嘯掠ス彼主打克大声呼テ

曰吾輩勝算ヲ占イ剽掠ハ其贏利ナリト而兵ヲ
縦テ大ニ掠ム彼主丁克終身ノ履歴皆公明正経
ナリト雖モ將リ此擧ハ誠ニ一生ノ汚点ト謂フ
ベシ洛吧兒昆德罪ナフシテ空シク二國ノ貪欲
ニ滅ブ印度史家ノ言ニ據レバ洛吧兒昆德人ヘ安
額ヲ渡リテ遁レシ者無慮五十萬ニ減ゼズ國境
一空復メ荒野トナレトモ洛吧兒昆德ヲ恫スノ後六月
官四名新ニ甲咨佗ニ渡来シ一千七百七十四年
第十一月二十日新政ノ令ヲ発スル諭官其一ヲ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

太佐漫孫ト曰ク英国ノ貴族ニシテ當テ公司ノ
為ニ印度ニ被役スヤ一ヲ将軍(ゼネラル)ト為シ帝ノ寵臣其權宰相ニ均シ其一ヲミスト(ミニストル)ト曰フ著名ナル(ナン)ヂニヤニー(ニスル)ノ著述著ニシテ
才識ト陰口トヲ以テ聞ユ之人ノ始メテ任ニ赴
クヤ相語テ曰ク印度ノ政府ハ暴人(ボーイ)穢醜ノ聚會ニ
シテ彼士丁克(スチレング)ハ必ズ邪悪ノ雄ノミ多方経営シ
テ之ニ抗拒スル(ン)ハ正人ノ任ニ非ラト故ニ其劾(ガイ)町
ノ蓁事ニ於テ相共ニ彼士丁克ノ説ヲ扯キ玉ト
コロニ其政権ヲ褫奪スル(ン)ヲ彼士丁克ノ權(ケン)ヲ當テ公司ノ
代理負ト
ノ專制(デスポチック)ニシテ虚烙(ホラ)ノ駐剳セシムル所ノ
密探(スパイ)ヲ招還シ代フルニ已ノ党(パルチ)ヲ以テシ之ニ托シテ彼士丁克ノ
全州ニ行ハレズト宣布セシム又(マタ)閔泥(ミンド)國駐留ノ
英将ニ命シ閔泥侯ヨリ二週日ヲ期シテ其負債
ヲ収受シ終(ヲハ)リ軍ヲ率テ帰ラシム此際ニ於テ閔泥侯適(タマ)病没ス
司ト閔泥ト(ノ)間ニ締結スル(ン)條款ハ我銀拂償ニ
関スル(ン)一項ヲ除ノ外総テ廃棄スト宣布シ更
ニ閔泥(ミンド)ノ爾君ヲ要シテ新約ヲ定メ爾ニ彼士丁克

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

ヲ責ムニ備銀ヲ取テ英兵ヲ
ツテレ而シテ今ハ則チ惟ダ其尤ニ效フノミナ
ラズ又テ其兵負ヲ償ス佛訶士（ブッシー）ハ又嗣君ニ迫テ伯
那児士（ベンガル）ヲ割カレム其総税一歳二十二洛克（ラック）ヲ
出スベシ初メ先侯貨幣二格洛克（ラック）ヲ蓄ヘシヲ後
宮ノ窖中ニ埋蔵スルニ至テ其母妻共ニ先侯ノ
遺命ヲツテ其全額ヲ要求ス時ニ新君ハ公司ニ
謝辞スベキ全額及ビ英兵士
ノ重債ヲ負フノミナラズ先侯ノ貴寶ハ即チ公
物ニ係レル国債ニ當ツベキモノニ係レルヲツテ
許サズ然ルニ増黎深（ブリンダバン）ハ横ニ甲咨克（カンキエン）ヲ政府ノ保証
ヲツテ遺産全額ノ四分ノ三ヲ二大人ニ予フル
契書ヲ作リ新君ヲ要シテ之ニ捺印セシム溯泥（ブッシー）
ノ財政ハ是ガ為ニ大ニ窮スト雖ニシテ将士俸給
ナキヲ為テ敢テ人民ヲ暴斂スルヿ大凡二万人
公司ノ兵撃テ之ヲ平ゲ統ベルヿヲ
得タリ

彼士丁克（ブッシー）ノ執権ヲ失フヤ苟モ其罪ヲ告訴スル
者ハ必ズ新官ノ愛顧ヲ得ベシ此事一メビ播傳
スルヤ及レテ四方莫屓（ムーア）ノ先ヲ争フテ甲咨克（カンキエン）ヲ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

ニ帽集シ一七千七百
十五年証詩雑紛相接シテ而シテ皆
慶譽セラン之議官逐ニ之ヲ議院ニ下シ且ツ曰
公正ナル総督彼士丁克ハ其太小軽重ヲ論ゼズ
當ニ犯スベカラザル贓罪ナシトスル者ノ如シ
逐ニ次説ヲ以テ二年同ニ打テ四十「ラフク」克ノ大産
ヲ致セリト嫩鳩摩「ラフクシ」ト曰者
ニ生レ夙ニ撲児士「セメバット」克巴「ヒカルパ」ノ間ニ官仕
シテ枢要ノ職ヲ守リ能ク「ロン」洛児ノ大金ヲ蓄フ議院屢
罪ヲ治セシ丁前後勝テ数フベカラズ是ニ至テ

嫩鳩摩「ラフクシ」ト曰者ニ生レ夙ニ撲児士丁克「セメバット」克巴ノ間ニ官仕シテ枢要ノ職ヲ守リ能ク「ロン」洛児ノ大金ヲ蓄フ議院屢罪ヲ治セシ丁前後勝テ数フベカラズ是ニ至テ彼士丁克ヲ訴テ曰初メ彼士丁克巴ハ摩尼「モニ」ノ船金ニ「ロン」洛克ヲ受ケテ之ヲ閣況侯ノ宮中総監ニ任ズト是ヲ証言中右モ重大ナル者トス

之議官ハ彼士丁克ヲ議事堂ニ引キ嫩鳩摩ト對訟セシム彼士丁克亦ヨリ事体ニ通ズ吾公司ノ命ヲ受ケテ印度総督メリ宦ニ在リ汚穢ノ小人ト堂上ニ並ヒシテ詰責ノ辱ヲ受クベカラズトイヒテ退キ去ル覚人等因テ厥雄林「ヲリング」ヲ推シテ彼士丁克ノ席ニ就テ嫩鳩摩ヲ召ス嫩

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

媽摩(ママ)ヲシテ其罪迹ヲ陳ベ且ツ摩尼(ママ)ノ手簡ヲ出シテ之ヲ証スル時ハ即チ明ニ賂金ヲ贈ルノ事ヲ記スルモノナリ議員等直ニ総督審ヲ二路克(ママ)ニ送ヘキ法當ニ没入スヘシト議定ス摩尼之ヲ聞テ手簡ノ偽リナル事ヲ訴ヘ正人間ニ其花押ノ偽造ニ出ルヲ断言スル者アリト雖モ其印章ノ真正ナルヲ如何トモスル事ナシ茲ニ媽摩(ママ)盡ノ溺(ママ)ノ貴族顕官ノ印章ヲ偽造ス其犯スルニ及ンデ之ヲ室内ニ発見シ此時ノ始メテ露顕スルヤ彼士丁克(スチンク)没入ノ議ヲ関キ自ラ寃屈ヲ明サンコトヲ欲シ因テ大審院ニ訴テ曰媽摩(ママ)及ヒ其他数十輩擯リニ相党援シ証言ヲ以テ己ヲ陥レン事ヲ謀ルト法吏其訴状ヲ受理シ姑テ彼士丁克ヲ廃スルニ當テ彼ノ一統(ママ)ヲシテ安ンセシメ盡ク拘留セシム訟事ノ初発ヨリ八週日ヲ経テ甲谷(ママ)ノ一統(ママ)ヲシテ媽摩(ママ)直ニ縛ニ就キ因テ大審院開廷スルニ及ンデ精察ノ案験ヲ経甲谷(ママ)ノ偽造ノ迹全ク證明スルニ至リ終ニ訴訟實ヲ得偽造ノ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

ヲマテ其罪科ヲ宣告シテ之ヲ庶中ニ之ヲ熟閑ノ処ニ絞殺又ハ斧ヲ以テ彼士丁（ヘンヂャン）焼法律ニ倚テ當ニ刑スベカラザルノ婆羅門徒ヲ殺シタル心ハ自家ニ関スル一切ノ告訴ヲ将来ニ訴タンガ為ナリトノ物議一時頃ル上等人士ノ間ニ行ハレ遂ニ彼士丁克ノ告訴ト梵商ノ告発トノ相符合シタルハ真ニ偶然ニシテ訴訟ハ彼士丁克ノ當時ニ誓言スル処ニシテ亦毫モ其痕迹ナシトス且斯リ極刑ニ處スルハ當時ノ残酷ナル英國ノ法律ニ效フ者ナレバ目シテ澁刑トスルヲ之ヲ庶中ニ之ヲ熟閑ノ処ニ絞殺又ハ斧ヲ以テ彼士丁克ノ當時ニ誓言シテ其罪科ヲ宣告シテ

ホヨリ彼士丁克ノ切庸ヲ称慕スルヲマテ勤慕ヘクナレバスヲ起シテ主司局ノ判決ヲ破棄スル事遂ニ止ム依テ彼士丁克甚敢手ノ党議ノ庶内ニ盛ナルニ當テ彼士丁克ハ在勤ノ従暴ナルニ嫉ヘズ一時憤怒ノ餘リ職務ヲ辞セシメント七千七百七十六年迄ニ事ニ託シテ総督職ヲ辞セレドモ帝ス其後二三月紛議漸ク緒ニ就キ心思従テ復ス其ニ及テ更ニ従事ニ諭シテ退職ノ委託ヲ棄却ス従事此報信ヲ得ルヤ片ハ彼士丁克ノ誹評甚タ強ク禍将ニ及ントスル勢アリ因テ断然本院主司局ニ啓シテ曰余ハ主人ノ命ヲ受ケ茲ニ総督職ヲ解ヤンコトヲ請願スト雖モ院中ニ於テ彼士丁克ノ党ト其敵手ト激論スルヿ数月従事断ノ事就ニ露白シ委託庶棄ノ書翰モ亦議事堂諸人ノ實験ヲ経ントス雖モ竟ニ多数ヲマテ彼士丁克ハ實ニ其職ヲ辞スル者ナリト議決シ従テ新総督選挙ノ事ニ着手セリ此ノ事ルニ及ンテ一時騒然物議沸ガ如シ議官ノ先成人将軍猛狂雄林窮ニ異因ヲ言ヲ取テ自ラ総督ト称ス彼士丁克皆テ城寨及倉庫ノ管鑰ヲ授ケズ吾現ニ公司ノ命ヲ受テ総

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

督メ り何者ヵ敢テ冀往
ノ吏ニ諭スニ吾命令ニ非
得ズトイフヲ以テス猛
ノ軋轢日一日ヨリモ烈
ノ勢アリ彼士丁克其悔毒ヲ
瑞レ因テ曲直ヲ大審院
事ニ係ルヲ以テ深思苦慮時ヲ移レ竟ニ
四時ニ至テ屈拉雄林政権ヲ今日ニ就ンハ正理
ニ非ズト判決シ乃チ一千七百
七十七年此後数日遍ク屈拉
雄林及ス彼士丁克因テ其全権ヲ一時ニ収復ス

ト雖モ毎事佛朗士ノ為メニ阻礙セラルニ人積
怨骨ニ入リ終ニ當時ノ蛮習ニ依テ曲直ヲ對戦
ニ取テント決ス佛朗士痘ヲ被リ死モナク英國
ニ還ル一千七百
七十年

○第二十三編

○英人瑪剌佗ノ戦ヲ

晋若荷昌児(ジョンジアホルヤ)猛克瓦児ノ酋長及ビ墺生等初メ白士(ペスタ)ノ幣朝(瑪剌佗王ノ都)ヲ拠ヲ蓄ハヘ終ニ各〻別郡ニ據テ自主ヲ示シ瑪剌佗本ト精騎七

萬歩砲兵各、十餘萬アリ此ニ至テ悉皆其
ノ手ニ歸シ各、私利ヲ營ミテ復タ王室ヲ顧
ズ瑪剌佗（マラタ）ノ新主摩梁（マドウ）、拉阿（ラオ）
王族ソノ右ニ出ル者ナシ故ニ國人皆望ヲ歸シ
タリシニ不幸一千七百七十二年十一月死シ其
弟那兒拉因（ナルラオン）、拉阿（ラオ）代テ立ツ前編ニ所謂安額地方
ノ兵ヲ招還スル者即チ此人ナリ那兒拉因立テ
僅ニ九月ヲ經テ伯父拉克保（ラグホ）ニ弑サル時當
ノ東論ニ據レバ其證跡不詳ト
拉克保把（ラグホバ）人ト雖リ勇武人ニ絶
スト然ヒ詐謀ニ深ク遠慮ニ乏シ而シテ竟ニ數奇

ヲ叫テ身ヲ殺フ其位ニ即クヤ一千七百七
十三年直ニ德（ドウ）ヲ施シ前署（カン）ヲ改テ其數郎ヲ取ル說ニシテ空シク之
ヲ還ス次ニ買蘇甫（マイソホ）ヲ襲テ徒テニ金幣ノ契書ヲ
得メリ適、大臣事覺ヲ結テ捕拿（プナ）庸ニ戮スト同キ
中道ニシテ歸ル幼メ大臣事先主那兒拉因ノ妻
方ニ姙ム因キ之ヲ一小城ニ陪シ密ニ徒ノ姙
婦數人ヲ採テ共ニ居テシム久シクシテ君夫人女子ヲ
產スルノ變ニ備フ夫人果シテ之ヲ第二世摩梁（マドウ）、拉阿（ラオ）
孕ノ言ヒ驗リトス世其因テ
信否ヲ知ル者ナシ
ト称シ奉シテ以テ君主ト
攝政ノ制ヲ主テ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

国事ヲ處辨スヘシヲ勧ム
四年拉克保把日夜疾行
特ノ巨擘ニシテ齢
名ヲ表カレメル額台ノ模
大ニ攝政党ノ軍ヲ敗
中ニ進入シ其驚懼紛擾ノ機
スルノ謀ニ出テズ敵兵ヲ撃
児漢堡ニ向テ引キ去リ
荷蘭甬滑若ト倶ニ兵ヲ率テ
ルニ逢フニ雄乃チ拉克保把
ノ軍ニ従ヒ共ニ極

塞拉列ニ趣キ瞿克呢児部ヲ要シテ同盟セシメ
以テ其兵ヲ合ス
拉克保把遂ニ長官ニ言ハレメテ曰吾ニ援兵ヲ
假セヨ吾當ニ金幣ヲ献シ地ヲ割テ之ニ報ズベ
シト長官児デ之ヲ許シ爰ニ倶ニ盟約ヲ定メテ
七百七十五年公司ハ沿ド一七紀間亞
セラレ常ニ濠及ビ
ヲ占有セン丁ヲ望ム此ニ至テ長官乃チ拉克保
把ニ言テ曰貴國若シ之ニ糧秣ヲ給シ落葉及ヒ
藏塞ヲ割カバ吾必ス兵ヲ出シテ君ヲ助ケント

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

蓋シ此両地ハ三十年前葡萄牙兵ト戦テ略取スル所ニシテ尓後瑪剌他人常ニ勝ヲ歌唱シ収メタル證徴ト称シ誇耀スル（ノ）資トセリ故ニ拉克保把大ニ困シ良久シテ之ヲ許ス将ニ盟約ヲ定メントスルニ及テ葡萄牙人婆娑撒（ベッセンダ）墜（セント）ノ地将ニ公司ノ手ニ帰セントスルヲ聞キ大軍ヲ発シテ回復ヲ謀ル孟買政庁此報ヲ得テ以為ク瑪剌他ハ葡萄牙ノ犠（ボ）牲（ン）ニ供（ス）ベキニ若カズト因テ盟約ノ完結ヲ待タズ断然兵ヲ発シテ先ツ此両地ヲ占ム一千七百十四年此際ニ於テ浦拿攝（プナ）政府厚利ヲマテ荷蘭（ホランダ）甫（ポルトガル）及ビ潜（シナ）諸ヲ誘ナヒ拉克保把ニ絶メムレメ更ニ大軍ヲ発シテ拉克保把ト戦テ大ニ之ヲ破ル拉克保把一千騎ヲ以テ遁レ走リ自ラ英将給丁克（キング）ノ陣営ニ投ズ遁（ママ）給丁克ノ厚遇ノ尓（ママ）慮隊ヲ率テ蘇拉徳（スラット）ニ到ルニ會セリ給丁克ハ拉克保把ヲ延見シ要シテ之ニ従ハシムルヤ其略ニ曰ク拉克保把當ニ年租十九洛克（ラック）ヲ出スベキ地ヲ割キ即金千八洛克ヲ出スベシ又ヒ永遠ニ撒塞（サルセット）及ビ婆娑（ボンベー）ヲ予カベル公司當ニ三千人ヲ貸シテ拉克保把ノ復位ヲ翼成

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

スベント拉克保把窮鳥ノ勢ヲ利害ヲ顧ン二暇ラズ遂ニ之ニ従フ是ヲ蘇拉徳條約ト云フ此條約ハ公司ヲシテ瑪剌他戦争ニ干與セシメン者ニシテ其締結ハ彼士丁(スチン)ヲシテ瑪剌他及ビ誠事院ノ衆リ知ラサル処ナリ此ニ由テ瑪剌他攝政府ト戦端ヲ開クノ禍ニ罹リ遂ニ始丁(スチン)克ニ余シ補拿庫ニ向テ進軍セシメ一千七百十五年始丁克住テ陲拉士(ベラス)ヲ過ギ瑪剌他ノ大軍ニ逢フ是ヲ一千六百六十七年蘇拉徳高行ノ紳士等勇ヲ振テ壘垤(ヴァンジー)日ヲ卸ルヨリ以来英瑪両国ノ戦争ヲ歴ス英軍兵数寡少ト雖ド瑪軍ノ什一ニ當ラズ就ニ戦テ瑪軍大ニ破レ諸将先ヲ争フテ呢児孟(ボンベー)河ヲ渉リ大砲ヲ放レテ進レ走ル孟加拉(ベンガル)兎(ラ)ノ酋長兵ヲ擁レテ出テ戦ヒ又敗ヲ取ル是ニ至テ願ニ拉克保把ニ與シ金幣ヲ贈リ公司ニ贈路智(ボルトガル)ノ祖ヲ尓メン(ゴア)ヲ請フ之時ニ際シ英ノ艦将某大ニ瑪剌他ノ艦隊ヲ撃破シ海陸共ニ望外ノ大勝ヲ得テ往来無名無力ノ孟買(ボンベー)政府一時ニ拉克ノ土地ヲ領有スルニ至ル補拿攝政府此一敗ニ沮喪スルヲ機トシ

徳干都督兵ニ将トシテ之ヲ伐チ以テ其数郡ヲ取ル

孟買政府連リニ功利ヲ得将ニ隆盛ノ勢ヲ示シトシテ空ク仏朗社等ノ妨碍セラル仏朗社ノ侵略ニ憤リ危険ニシテ不正ナリトシ殊ニ諸領属ノ管轄権ヲ有スル議事院ノ允許ヲ経サルヲ以テ違法ノ盟約ニ擬シ厳命ヲ以テ之ヲ廃棄シ且ツデ配発ノ兵ヲ招還ス彼仏朗社ト河克モ亦因ヨリ此条約ノ不正ナルヲ知ル然レドモ政略上ヨリ見解ヲ下シ実際ヲ酌量シテ以テ容リ公司ハ実ニ戦争ノ累ニ干渉シ復タ免ルベカラノ術ナシ今事既ニ茲ス寧ロ累敢事ニ従ヒ速ニ其局ヲ結ブニ如カズト因テ此説ヲ主張スト雖モ議事院ノ多数ニ因テ遂ニ佐官(サカン)由普敦ヲ捕拿庁ニ差遣シ明カニ孟買政府ノ措置ヲ棄テ公然孟買諸吏力メテ之ヲ擯斥ヲ拉折シ戦捷後勇気方ニ振フノ実ヲ挙スルノ先措ト信ジ然ル後ニ和議ヲ結バレンヲ論ズト雖モ遂ニ用サラレズ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

攝政官等早ク猛買ト呼ビ甲谷他ノ議論合ハザルヲ奇貨トシ因テ以テ徴伴ヲ博センヿヲ謀シ由普敦ノ捕拿府ニ至ルヤ攝政官等交、甘言佞辞ヲ以テ甲谷他長官ヲ称賛シ且同香ニ曰佛朗西公ノ才徳ニ由テズンベ安ンゾ講和ノ幸福ヲ見ンヤト由普敦サシリキ動カズ断然議ヲ発シテ撤壁及ビ波蘭ヲ公司ニ委附スヘシト曰フヿアルヲ以テ由普敦ニ要求スルヿ倏チ変シテ傲慢無礼ヲ極メ且ツ近来公司ノ所有ニ帰シタル土地ヲ盡ク返還スベキヲ以テス曰佛朗西公司ニ直ニ拒克保把ヲ告ケ致シ再ヒ記憶ノ諸軍ニ出発ヲ命シ軍需ヲ孟買ニ送輸又攝政府大ニ蠟シ由普敦ニ就テ和議ヲ求ム其條約一ニ曰拒克保把當ニ其兵ヲ解散シテ領ノ地ヲ棄ツヘシ約既ニ定マルヤ攝政府ハ唯孟買ノ一地ニ限リ旧ニ依テ領有スルヿヲ得ベシト是ヲ以テ英兵ニ寄附スベシト是ヲ以テ英兵ニ寄附スベシト是ヲ以テ英兵ニ寄附ス

約ト曰フ七千七百十六年前年ノ役ニ英兵十分ノ利ヲ収メンヲ以テ之ヲ観レバ亜賈(ベー)長官ト此條約ヲ以テ大ニ公司ノ栄利ヲ賊害スル者トシ(スベカラ)甚タ先當ナルガ如シ何ヲ以テ公司ノ信ヲ拉克保(ラグボー)把ニ缺クヤ英人ノ盟約頼ムニ足ラズトセリ二十年ノ間政府ヲシテ過分ノ権勢ヲ擴張セシメ害ヲ後生ヲ馴致スニ十年佛蘭西(フランス)士手腐ニ蘇拉徳(エクソト)條約ヲ沮害セシハ何ゾ此之不利ヲ取ルニ至ラシヤ結約ノ後四月龍動(ロンドン)本院ノ使節来リ蘇拉徳條約ヲ是認シ且拉克保把割ノ所ノ土地ヲ領有シ及ヒ英領各地皆拉克保把ヲ輔クベキ命ヲ庸フ是ニ於テ亜賈政府一旦数月ノ汚屈ヲ伸ハスコトヲ得テ直ニ普倫徳保約ヲ廃棄シ拉克保把ヲ府中ニ招キ月俸若干ヲ給與ス捕拿(プナー)ノ攝政官佛朗士(フランス)等ノ倫盟ヲ怨ムト雖モ當時適、西宰相卒加蘭(ソルカラン)羅(ラー)捕ト挪拿、荷拿維士(ノルウエー)トノ多厭(ダン)為ニ疲耗スレヲ以テ勢セ英人ノ罪ヲ問フニ暇アラズ此内訌ニ際シ一千七百七十七年前五月佛国ノ無頼聖、尓濱(セントルビン)ト名クル者自テ佛王ノ欽差

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

大使ト称シ埔拿ニ至テ曰余佛王ノ命ヲ受ケ近
歐兵二千五百人ヲ率シ且ツ梵兵一萬ニ應スベ
キ兵器及ヒ武官ヲ具シテ貴國ヲ救フベキ全權
ヲ委托セラレタリト埃那維士之ヲ信ス乃チ
貿ヲ距ル丁僅ニ廿三英里ナル訂烏児灣ヲ交有
シテ援兵上陸ノ用ニ供スル
龍動水院普倫徳條約ノ不利ヲ悉シ之ヲ廃セン
ト欲スレドモ未信義ヲ異邦ニ失ハンニ畏リテ日水院ハ此條約ヲ
使節ヲ遣シ来リ諭サレメテ已ヲ得ザルニ至ルベシト雖モ若シ之ヲ改正ス
ベキ計策アレバ孟買政庁ハ便宜ヲ以テ改正シ
又拉克保把ト新約ヲ締結シ
人水ト此條約ヲ重ゼズ徒々履行セザル所アリ
孟買長官乃チ其違背スル所ヲ摘発シテ痛ク之
ヲ攻メ公然拉克保把ヲ助ケ
モナク埔拿政庁一大変動ヲ生シ拉克保把覚遂
ニ全勝ヲ占ム因テ使節ヲ孟買ニ遣シ兵衆ヲ
テ拉克保把ヲ埔拿ニ送致セシメ請フ所ノ
七百七十八年其後一二月又変動アリ那維士ノ
党勢ヲ得テ拉克保把党迯ヲ絶チリ然ト雖モ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

蘭政府断然拉克保把ヲ補ンニ一庭ニ其得失ヲ
ツテ孟買政府榮辱ノ繋ル所トシ蓄蔵ノ餘リ鷹
爪ノ備ヲ待タズ又未ダ招集セラレザルニ先ヲ
ス甚シキハ未ダ信委スベキ将卒ヲ得ザルニ先
ツ些々タル兵衆ヲ以テ強敵瑪剌佗ノ全力ニ抗
セント議決シタリ此警ノ報ニ接スルヤ那翁荷
蘭雖士ス大ニ其兵衆ヲ增シ城寨ニ根倉ヲ充テ軍
艦ヲ修繕シツテ敵兵ノ来ルヲ待ツ
孟買政府新ニ拉克保把ト条約ヲ結ビ
累同ジ大佐愛迯敦ヲシテ派軍六千ヲ率テ補拿府
ニ進行セシム愛迯敦最モ将卒ノ任ニ堪ヘズ帯
行スル所ノ壮牛一萬九千頭其外羊豕数百千ノ
為ニ累ハサレ軍行一日僅ニ二英里ニ過ギズ而
シテ瑪剌佗ノ戒虞既ニ備ハリ四方ノ兵早ク城
外ニ聚屯セリ途ニ大佐可克倫愛迯敦ニ代テ
将帥タリ迯レド軍機進退ノ権ハ實ニ孟買政府
ノ出征行委委員佐官哥倫佗ニ属セリ英兵進テ
徳繁昂模ニ至レバ則チ其地記ニ鳥有ニ帰シ営
ヲ置クベキ所ナシ瑪剌佗人又称著児ヲ焼キ逐
ニ補拿府ニ及サントス是

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

懼シ猥猥出ル所ヲ知テズ徳黎帰模ノ（ヘリゴー）浦拿ヲ距（ナ）ルヿ十八英里ニ過ギズ然レドモ英軍ニ遏（ハバ）マレンコトヲ欲シ使者ヲ遣シ和ヲ講ジ其陣ヲ撤シテ退リ敵兵追躡甚タ急ナリ一千七百七十四年第一月十二日夜英兵鳥帰模（ヘリゴー）ニ止陣ス瑪剌（マラタ）人継テ至リ夜中ニ攻戦ノ具ヲ沿メ巨砲ヲ置クヿ天明ルヲ待チ砲ヲ盡シテ英陣ヲ衝ク曷拿克（カナダ）周章措ヲ失シ遽ニ敵将那破（ナポ）崙（レオン）ニ就テ和ヲ乞ハレム荷那維士（ホランデヤ）人ハ那破崙（ナポレオン）ヲ以テ仏克保（フランス）把（バタビヤ）ノ王ト為シ仏克保把ノ得テ英ト使者将ニ之ヲ許サレントスルヲ知テ急ニ英ヲ救ンヿヲ請フ潜（ひそか）ニ英ヲ出テヽ自ラ譜（ふ）ス荷那維士ハ乃チ中保トナリテ両軍ヲ和解ス其保約ニ依テ英人ハ盡ク一千七百七十三年以来得ル所ノ土地ヲ先ナヒ始テ人質ヲ出スノ大厚ヲ取ル然ト雖モ英軍全没ヲ免カレメルハ實ニ普若（プロシア）ノ力ニ仮レリ龍勃（ロンボー）本院直ニ擾然（ざわめ）ト敬（おどろ）キ語（かた）淵及ヒ曷拿克ノ報ヲ聞ルヿ是ニ至テ益（ますます）ノ存七一ニ瑪剌

他人ノ意ニ繫レリ」

彼士丁克（スチンダスト）ノ権勢ヲ恢復スル
ヲ輔ケルノ議案ヲ是認シ又亜加拉（アカラ）ノ兵ヲ発シ
テ浦拿（プナ）ニ於ケル仏人ノ計略ヲ摧折シ以テ孟買
ノ勢ヲ張ラントノ謀ヲ図テ孟加拉兵四千餘ヲ
差シ向ケ如何ヲ知ンヘカラザル諸酋長ノ間ニ
ヲ周旋シ一千餘里ノ路程（コース）ヲ河畔ヨリ進テ孟買ニ至ラ
シムルニ十七百八十年当時印度顕官数（ナンバー）ト称セラル
コレヲ評シテ彼士丁克狂暴ノ兵略ナリトスル
モ亦宜ナラズヤ然レドモ寡少ノ梵兵ヲ以テ英国

ノ勢威并ニ名声ヲ印度別ニ樹立シたるハ實ニ
此狂暴ノ兵略ニ係ル此役ノ統督（ガバナー）ハ即チ英顧問
印史ニ著名ナル将軍額建篤（ゴッダード）ナリ其軍令最整ニ
シテ衆モ勁捷ノ称ヲ贏チ厳正ニシテ
テ過ル所ノ君民ニ接スルニ殷勤ナリ故ヲ以テ
沿道諸国各〻貯蔵ヲ発シテ悦デ之ニ供給セザル
者ナシ殊ニ拝克（パカ）児主ノ如キハ瑪剌他（マラタ）ノ
厳命ヲ犯シ心力ヲ傾ケテ英軍ヲ款待スルニ
英軍進テ普児漢堡（プルハンポル）ニ至テ始テ孟買ノ救援ヲ得
タリ額建篤乃チ方ヲ転シテ蘇拉徳ニ向ヒ以テ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

埔拿政府英佛ヲ慮断セシガ為ニ発遣スル処
二千騎ノ鋒ヲ避リ
将軍額建篤（コツタード）ノ西海岸ニ建スルハ拍モ孟買ヲ将
ニ仏レントスルニ起スノ報倉ニ投シ其遠征
ノ名譽ハ又テ英兵ノ汚名ヲ洗滌シメリ彼士丁（スチヤ）
統孟買政府ト同シノ猶模ノ盟約ヲ廃棄シ更
ニ額建篤ニ命ジテ普倫徳（ブランデン）盟約ニ基キテ攝政官
ト新約ヲ結バシムセ千七百十九年ニ至リ英
把（バタビア）ハ帝ナニ普若（ニンロ）ノ処ヲ辞シテ蘇拉威（スラバヤ）ニ至リ英
軍ニ自帰ス額建篤厚ク之ヲ遇シ月俸半（ラクス）洛克（ルピー）ヲ

給ス時ニ諸梵主謀ヲ通シ共ニ英公司ヲ滅サン
トスルノ密約アリ埔拿攝政官英人又盟ヲ渝テ
拉克保把ヲ庇庵スルヲ怒リ轉シテ此密約ニ加
ハル額建篤未ダ之ヲ知ラズ一日事ヲ申諜スル
ニ及ンデ攝政官ノ面名ニ因テ拉克保把ヲ吾ニ致
ン撒壘（サンドロット）ヲ還附スルノ二事ヲ以ズ締盟ニ先ダチ
ルベカラズト額建篤怒リ直ニ埔拿ノ使節ヲ駆
逐シテ開戦令ヲ発シ傷ヲ催克（ガック）毛人ト保約ヲ結
デ其援兵ヲ仮ル其盟ニ曰崖克毛酋長ハ三千騎
ヲ率テ英軍ニ合スベシ成功ノ後崖克毛人ハ盡

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

ク賢祥河ノ北ノ要衝刺佗領ヲ奄有シ英人ハ其ノ
南ノ数郡ヲ取ルベシト雖モ遽ンデ亜述達巴城（近時都府頗ル隆盛ナリ）
ク晋若荷昌甫勢ヲ合セ二万騎ヲ以テ英軍ヲ要
撃ス額達篤撃テ之ヲ却ケ遂ニ呪甫勃陀河畔ノ
地ニ陣スル時俘ヲ獲ルヿ多ナリ
興都斯坦西北ノ英軍亦同ク大捷ヲ得英國ノ名
一時ニ盛ナリ玆ヲ以テ克淵倉勃漢ヲシテ安
兵二千四百人騎砲兵各、若干ヲ率テ瀕徳（一小地
ノ東南六十里ニ在リ）ヲ攻ムベシテ晋若ハ克淵倉ニ
命ジテ先ツ之ヲ
勃漢公司ニ在テ謀略有ル者ノ一人ナリ一千七百
八十年二月ヲ以テ発程シ閙手ニ抵リ晋若ヲ攻メ
カヲ以テ砲ニ藉テ麾下ノ佳勇ヲ以テ先ツ之ヲ
拔キ進デ孔黎甫城ヲ過グルニ孔黎甫ハ古来有名ノ
堅城ニシテ圓形ナル断崖ノ頂ニ屹立スルヲ
以テ印度全境古ヨリ攻ム
ベカラザル者トセリ
孟加拉兵ノ統将燻児、衛児、克徳ノ
人ヲ敢テ之ヲ攻取セントス田フ衆論之ヲ評シテ
狂暴トス勃漢ハ則チ以為ラク
城ヲ拔キ以テ美名ヲ取ルベシト因テ克徳ノ說

ヲ賛成シ城外ニ駐ル丁
同ル第八月二日夜豚将伯黎士ヲシテ歐兵二千
人ヲ率ヒ二隊ニ分チ督シテ突ニ木梯ヲ崖面
及ビ堅壁ノ級壇ニ架シ吶喊躋ク登ル城兵大ニ
驚キサシク抗シテ輒チ降ル天明ルニ及ヒ英國
ノ城壘ニ沿ヒテ列植シタリ此役ヤ英軍一卒
ノ死傷ナシトカ乃チ統領黎甫落城ノ事候チ全印度
ニ傳播シ英人前日ノ汚辱溫恕雪ノ如ク漸ヘテ勢
威復タ大ニ振フ彼士丁兒常ニ之ヲ称シテ兒黎
甫ノ一捷實ニ鴻勲模ノ太厚ヲ雪ケリ此一事ヤ

テ数百万金ニ直ツベシト云リ副将伽林風勃漢
ニ代テ将卽チ更ニ兵員ヲ増シテ晋若ノ所領
ヲ攻ム累戦連勝惟タ其妹児兎別ヲ抜クノミナ
ラズ遂ニ其居城ニ迫ル是ニ於テ晋若懼レテ捕
拏ヲ去リ帰テ英兵ヲ戒ツ一千七百十一年伽林風本ト
兵事ニ通ゼズ晋若ノ大兵ノ若ニ圍マレ大ニ疲
レ倉遑キ将ニ出降テントスルノ際佶カネ豚将
伯黎士ガ故フニ會ス伯黎士夜ニ乗
ニテ痛ク晋若ノ営ヲ襲撃ス晋若ノ軍大ニ乱
畫ノ其象馬什具及ヒ将卒ヲ失フ時ニ晋若ノ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

盟荷蘭（ホランド）ヲ親（シタ）シテ将（マサ）ニ軍艦（ガンカン）運（ウンパン）ヲ襲テ之ヲ勝ヲマテ勝負相償フヿヲ得（エ）タリ

一千七百七十九年冬印度各国催花（カデー）ヲ除ノ外盡ク合従シテ英公司ヲ謀（タバカ）ン諸汗（チーカン）ヲ督（ス）ル前督其盟主メリ相約スル直ノ各方面ヲ部分シ時ヲ期シテ齊（トモ）ニ侵入スベシト因テ徳（ドイツ）ハ瑪（マ）路（ラッタ）剌（ス）侵入ヲ負擔シ葡萄牙（ポルトガル）ヲ負擔シ拿克（ナグポー）ハ孟買（ボンベー）ヲ経テ亜（アルコット）加（カ）拉（ラ）ニ入ラントス此際ニ於テ英佛適欧洲ニ相戦ヒ佛人浦（プヅヂチエリ）濱（ポンデシエリ）ノ徒亦埔拿（ポンヂチエリ）ニ在テ英人ヲ謀ル事頗ル一時ニ雑出シ公司設ヒ之ヲ来未曾有ノ坎（カン）坷（カ）ニ遭遇スルヲマテ彼士丁兎其人ノ如キ非常ノ大才ヲ待タズンバ何ヲ以テ轉禍為福ノ功ヲ見ンヤ既ニシテ佛徳（ドイツ）呢（ニ）先ツ兵ニ将トシテ加拿的（カナダ）地方ニ駐ス孟買（ボンベー）ニ亦軍艦ヲ留メ以テ陸路ヲ塞ガレ糧兵ノ支給ヲ得ン為ニ由ヲレ長官蒲龍梅徒（ブランメドー）ヲシテ警戒（ケイカイ）猥（ワイ）猥（ワイ）スルノ士（シパーヒー）ヲ率（ヒキ）ヰ在館哈多列（ハードラス）ノ畜（チク）獣（ジウ）自ラ将トシテ瑪剌（マラッタ）侵（シン）寇（コウ）之ヲ取ル那拿（ナナ）荷那維士（ファナヴィス）ニ万騎ヲ率テ来リ救ヒ哈多列ニ二日ノ糧ヲ儲（タクハ）レ歩卒二千人皆疲

テ用ニ足ラズ病卒又六百餘アリ哈多列（ハートフォルド）ニ丁之日瑪剌佗（マラッタ）ノ上崎（ウッタラ）テ用ニ足ラズ病卒又六百餘アリ哈多列（ハートフォルド）ニ丁之日瑪剌佗（マラッタ）ノ上崎（ウッタラ）

偶、重瘡ヲ被テ斃ル全軍瓜ヲ望テ退焉（ヒエン）大軍ヲ率サテ嶺ヲ越テ補拿（プーナ）ヲ取テント欲ス連ニ瑪剌佗兵ノ攻撃セラレ雖テ荷蘭（オランダ）ノ援ヲ得メリ彼士丁克又孟加拉（ベンガル）兵ヲ率テ瑪剌佗（マラッタ）ヲ撃ト相拒テ戦ヒ将官数人ヲ殺ス彼士丁克刀ヲ

偶、重瘡ヲ被テ斃ル全軍瓜ヲ望テ退焉（ヒエン）大軍ヲ率サテ嶺ヲ越テ補拿（プーナ）ヲ取テント欲ス連ニ瑪剌佗兵ノ攻撃セラレ雖テ荷蘭（オランダ）

連焉

ヲ経海岸ニ泊ヒテ発セシ
兵略ノ第二回トス此挙ニ
震怖シ英国ノ威勢ヲ張レ
又埃及(エジプト)王ニ賂ヲ二千騎
仕ヲレテ[illegible]卒レテ瑪哈剌(マハラッタ)ニ赴ヤンム
潜(ひそか)ニ副官加抹(カルナック)属ノ寄
ク今ヤ敵兵深ク国腹ニ入
ントス今ニ於テ和ヲ講セ
其極(きょく)呪詛(のろ)勃陀(ブッダ)河外ニ追逐セラレシ吾ノ権勢終ニ
瑪剌(マハラッタ)ニ於テ加抹(カルナック)属ニ往ヒ
絶タレト是

テ成ヲ求ム彼士丁克(ボルトガル)呪テ之ヲ許ス一千七百八
十一年第十月十三日共ニ和約ヲ締結シ(むすび)慧(ケープ)
埠(ポート)以西ノ地ヲ晋若(ジョアン)ニ遂ス晋若(ジョアン)ハ則チ公司ト攝(せっ)
政官トノ間ニ周旋シテ又両国ノ和親ヲ保チ
向後両国ノ間ニ葛藤(かっとう)アリトモ雖モ必ス中立スベ
シト誓フ既ニシテ仏国ノ軍艦遁(のが)加拿的(カナダ)海岸ニ
来ル是ニ由テ彼士丁克(ボルトガル)ノ瑪剌(マハラッタ)ト和親セント
欲スル丁甚タ切ナリ又寄(よ)
スンバ終ニ英人其迹ヲ加
因テ唯瑪剌(マハラッタ)ノ要求ニ是

得ベキハ旧来得ル所ノ土地（ベッセン）ヲ還ス
ヘキヲ愛マズ
彼士（ハスケン）行克（ハスケン）十分ノ損失ヲ甘受シ終ニ晋（ジン）ノ解カ
ニ伝テ一千七百八十二年第五月十七日和約草
案ヲ定ムルヤ其第十一条ニ於テ撒賓（リシャーン）ノ条約ト如ク是ニ於テ晋
若ノ威望益〻瑪剌他諸侯ノ間ニ高シ英公司ハ倫
敦（ロンドン）条約ヲ以テ尽ク所得ノ土地ヲ失フ撒賓条款
中ニ瑪剌他政府ハ当ニ沖徳児、平黎ヲシテ尽ク
加拿的（カルナチク）ノ侵地ヲ英公司ニ還シ三月ヲ期シテ其
条ヲ践カズンバ断然瑪剌他国ノ公敵ト看做シ兵力ヲ以テ之ヲ強ユベ
シトノ一項ヲ載ス那拿、蒲（ナバブ）雅士（ハスケン）之ヲ奇貨トシ
テ厚利ヲ沖徳児ニ収メテ此頃ヲ陳カントシ
故ニ和約草案ヲ受理セシヨリ六月ヲ経ント雖
モ故ラニ批准ヲ遷延スヲ是ヨリ先ニ誼動（ギドン）下議院公
司本院ニ令シテ曰ク晋ノ挙動大ニ国光ヲ
損シ政略ニ戻ル宜シク其総督職ヲ奪フベシト
第十二月五日彼士丁克（ハスケン）偶〻其鴈書ヲ得タリ然ルニ此説早
和約ノ結了ヲ望ム丁孫（ダンダス）多ナリ然ルニ此説早
埔拿（ボナパルト）ニ伝播シ為メニ条約ノ批准ヲ妨碍スルニ

シナラズ絶督府ノ擁護ヲニ
七日沛徳児(ハイデル)、凡ス挪拿、荷蘭(オランダ)、挪威(ノルウェー)
主ノ印章ヲ鈐シ和約始メテ成ル而シテ英
瑪常ニ調和ヲ保テリ

○第廿四編

○瑪洛剌(マロテス)記 自一千七百七十一年
至一千七百八十年

此編瑪洛剌領及ヒ印度南部ノ時変ヲ記ス曩ニ
沛徳児、亜歴英人ト戦テ終ニ瑪洛剌城下ノ盟ヲ
結フノ乱ニ際シ一小梵国(サンスクリット)ノ酋々ノ禍害ヲ
受ケシニ止マリ殆ンド平安ヲ保テリ一千七百七
十一年ニ至テ加拿的侯(カナダ)摩哈(モハク)、亜懇(アメリカ)其父ノ故智
ニ效ヒ大ニ仏国ヲ掠メントス麻(マドラス)
洛剌政府ニモ又議院其請求ヲ拒絶スト雖モ長
官ハ擅ニ兵ヲ発シ喙ニ之ヲ戒メシカ仏人ノ
ヲ以テ城守ス加拿的ノ軍終ニ其城塁ヲ破リ是
ニ於テ侯ノ第二子英将ニ詣テ講和ス其後未タ二
年ヲ出デズ加拿的侯其尚ホ償金五分ノ一ヲ納
辨セズ剌ヘ帝ニ沛徳児(ハイデル)、亜歴(アレキサンダー)ヲ名トシ又兵ヲ假リテ攻
ヲ名トシ又兵ヲ假リテ攻

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

瑪塔剌長官丼(ナラビ)ニ主其寶什及ビ國土ヲ泥迦巴坦(ニカパタム)ノ和蘭(ヲランダ)人ニ納テ債ヲ償ハントスルノ願末ヲ熟知シナガラ一千七百七十三年九月兵ヲ發シテ之ト共ニ丼ニ其ニ於テ丼的國治(ナガパタム)的ノ郡縣トナン(ナガパタム)ル動(ナガパタム)ヤ不(ナガパタム)ル可(ナガパタム)ラサレヲ怒リ瑪塔剌長官ミストン、暁(ミストン)個(ミストン)ノ倍職ヲ奪ヒ嚴命ヲ下シテ丼的國ヲ復立セシメ一千七百七十四年孟洛德(ベンガル)、比昌多(ビハール)、烏里薩(オリッサ)ノ三州ヲ奉スル四十年冨四十萬磅(ポンド)ヲ沿克(ラック)ヲ蓄フ其歸朝スルニ及ンデ伊ヲ(アイルランド)愛蘭(アイルランド)比昌多(ビハール)ノ二名ノ除セラルル是ニ至テ尾田智ニ代テ瑪塔剌長官トナル比昌多ノ任所ニ赴クヤ加爭的(カルカッタ)侯爺ニ六十沿克ヲ賄ヒスヘテ林院ノ命ヲ施行スル無テント請フ比昌多許サズ親ラ丼的ニ赴キ廢主ヲ立テテ其國ヲ復ス

瑪塔剌ノ文官波倫(ボーロー)、孟賈德(ムカルジー)ナル者有リ初メ赤貧ヲ以テ印度ニ遊ビ其後月俸三百兒弗(ルピー)我四十七磅ニ當ルヲ以テ公司ニ出仕ス丼的復立ノ令始メテ發スルヤ孟賈德(ムカルジー)首トシテ議院ニ要求シテ曰ク余丼的國主ニ貸付スル金額ニ向テ其歳入ヨリ十六沿(ラック)

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

克ヲ要領シ其士民ニ賄賂ヲ
収獲其價七洛克餘ヲ要領
是ノ如キ明白ナル小事ノ
ノ賄賂アリト誣言シ恬ト
ヲ観レバ當時瑪塔剌有司
キタル言ヲ待ツンテ明ケ
議ヲ経テ一メビ其要求ヲ
他ノ吏員等ト冊約主ニ賄
庸一格洛兒半ノ巨額タル
ノ孟買德ノ要求權ヲ破
ヲ害スルナリト因リテ就
當トナシ其要求スル所ヲ
タリ洛德、比昌多等其多数
保々說言極メテ其不正卑
ニ交ンデ兩兒ノ軋轢益、烈シ比昌多終ニ議員二
人ヲ黙ケ大ニ卿燦兒、洛德、蒲列秩ヲ傳ス是ニ
打テ其兒大ニ怒リ又テ比昌多ヲ幽シテ政柄ヲ
裏収スル一千七百七十六年龍動本院命シテ比昌多ヲ裁ス
尋テ其官ヲ奪ヒ七議員ヲ點ケ更ニ孟買牡ケ官
吏燦兒、洛馬士、龍洛德ヲ以テ瑪塔剌長官トス

陪徳（バンド）甚職ニ称ハズ衆モナリ官ヲ失フテ去ン
初徳干都督ノ弟波撒洛（バサロワト）、戎克浪鳥児（ヨンクトウル）列ニ封ゼラレ佛兵一小隊ヲ備フテ自ラ守ル一千七百七十九年瑪塔剌（マドラス）政庁波撒洛ヲ要シ英兵ヲ以テ佛兵ニ更ヘ之ヲ保持スルヲ約シテ列土ヲ已ニ附托セシム盟約ノ捺印畢ルヲ待テ擅ニ其署鑰ヲ収メ十年間ヲ期ゼシテ全別ヲ加拿的（カナチク）侯ノ債主ヨル瑪塔剌官民ニ交付シ纔テ荷蘭徳（ホルラント）ニ遁ンコトヲ申告セシム都督怒テ曰何ゾ私ニ吾郡縣ヲ売授シ吾家事ニ干與スルヤト荷蘭徳又瑪塔剌政庁ハ北部諸列ヲ領有スル嵩ニ供スル所ノ年貢七「ラック」洛克」ヲ廃セント請ヲ要求スト雖モ之ヲ肯ンゼス都督益憤怒シ口ヲ極メテ瑪塔剌官吏ノ虐約ヲ責ム前編ニ所謂自ラ盟主トナリテ英人ヲ除ント謀リタル實ニ甚シ姑ノ餘ニ出ルトス彼士丁（ハスチン）焼此報ヲ得テ直ニ瑪塔剌ノ政権ヲ都督ノ朝廷ニ絶チ復タ干渉スルヲ得サラシム更ニ都督ニ警言センメン曰朝国政府ノ意向ハ公正ト和平ニ在テ権詐ト戦闘ニ在ラズ余大政府ノ旨ヲ体シ北列ノ年貢ハ毎

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

歳速ニ供スルヲ勉ムベシト是ニ於テ都督ノ意始テ解ケ直ニ諸梵王合従ノ約ヲ辞スルニ由テ戚セノ禍ヲ免カルルヲ得タリ

又沸徳児亜黎ト兵端ヲ開クニ先チ沸徳児亜黎八年間ノ軍費ヲ記スルニ当テアヾ沸徳児亜黎額ノ大数ニ因テ大ニ封疆ヲ縮ムルノ後瑪剌佗主土ヲ復スルニ及テ其七百七十二年十一月使ヲ発シ勇国ヲ成ス国人死戦逐ニ降シ沸徳児命レテ大ニ掠メ降人七百餘人ヲ殺シ毎年ニ各〻五児ヲ約シ是ニ至テ躬テ之ヲ領騎スト雖モ其劫掠ノ戦ニ及テ観ルベシ然モナリ瑪剌佗又之ヲ援ケ明年沸徳児ヲ攻テ瑪拉巴沿海ニ及ブ捕拿攝政官其頻リニ上国ヲ食ミ剰ヘ拉焼掠把ヲ援ルヲ知テ大ニ舊キ徳ヲ酬ント謀テ兵ニ共ニ沸徳児ヲ成ス一千七百七十六年二国ノ兵勢ヲ併セテ共ニ進ム沸徳児厚ク金幣ヲ遺テ之ヲ動カス二国ノ諸将貪テ戦ヲ欲セズ因テ事ニ托シテ兵ヲ打テ罷メ去ル是

ニ於テ佛徳児ノ権益、延張シ英土的拿河ニ至ン
是ヨリ先佛徳児盟約ニ係キ
ム嘯児、戎、林多寔及ビ加拿的侯摩哈麥亜繋カメ
テ之ヲ沮ム是ニ至テ又窓請シテ曰願ハ兵器糧
食及ビ戎士小隊ヲ假シ敝邦ヲシテ瑪剌佗ニ敵
スルヲ得セシメヨ請フ遽ニ遍嘗ノ價値ヲ以テ之
ヲ賠償セント瑪塔剌政庁尚ホ都督ノ旨ヲ策ケ
終ニ許サズ佛徳児此ヲ以テ深ク瑪塔剌ヲ怨ム
爰ヤナリ英佛和ヲ失シ歐洲ノ戦ヲ其事印度ニ
傳播スルヤ英人直ニ兵ヲ発シテ貢知智黎(ポンディチェリ)ヲ攻ム
英人ノ毒メニ被ヤレ一旦亰土トナル其回復ヤ
朱是ノ時ニ至テ全リ旧觀ニ復セリ
ヲ以メ十日ヲ経テ之ヲ授ク一千七百七十九年瑪塔剌長
官片捷報ヲ佛徳児ニ通シ且蘭西瑪坪ヲ攻ス
取ス意ヲ告ク瑪坪ハ瑪拉巴(マラバル)西沿岸ノ一小港ニ
シテ當時佛人ニ属ス三年ヲ未佛徳児之ニ応ス
品物及ヒ軍隊ノ支給ヲ歐洲ニ得ンノ便ヲ得メ
リ佛徳児乃チ對ヘシメテ曰吾必ス圍力ヲ擧テ
佛軍ヲ擒ケ且加拿的(カナヂ)ノ英領ヲ撃チテ雛ノ報ン
ト英人ハテ意トセズ兵ヲ発シテ瑪坪ヲ襲フ佛
徳児果シテ兵ヲ遣レヲ之ヲ敗フ終ニ英兵ノ毒

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

ニ按ヤん沛徳児（ハイドゥん）慈憤深甚シク適、補拿政府ノ大使
来ん＝値フ其言ニ曰攝政宦（ヘンヘ）ハ貴国ト異ナん丁ナシ何ゾ在印度ノ同盟ニ
入テ之ヲ擾ハザん若吾言ヲ聴カバ是亜両国ノ
間ニ在スん一切ノ紛議ヲ棄テ年貢ノ制ヲ廃
シ及ヒ英国新得ノ地（領土）時倉（トカ）阿ニ至ん迄テ皆
其占有権ヲ認可セント沛徳児大ニ悦テ之ニ従
フ

沛徳児時ニ年七十八親ラ兵百ノ事ヲ督理シ名
ヲ保教軍ニ托シテ大ニ兵ヲ遠近ニ募ん日夜拮

据事ニ従ヒ一千七百八十年季六月下旬ニ至テ
業ヲ卒フ歩騎共ニ七万人アリ多クハ嘗テ欧将
ノ麾下ニ属シ戦技ニ練達スん者ニ係ん大砲一
百門其使用一ニ欧式ニ效フ其名吾ノ一人嘗児（ナポレオン）
ヲ以テ輜重給糧トシ理事整ヶ人ヲシテ慰賞
セシム其兵勢ノ駸ンキ計畫ノ大挙トシテ沛徳児親ラ此大軍ヲ率テ進向スル時
ニ瑪塔剌（マドラス）政府悟トシテ備ヲ設ケズ偶ミノ告んアリト雖モ纔将軍蒲列（ブレ）
飛（ケ）無根ノ流言トシテ
之ヲ顧ノ六月廿日沛徳児ノ兵伽拿的（カんナチク）ニ入リ過

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

ん所家ヲ焼キ田圃ヲ荒ン暴行残害至テサル所
ナシ若民ヲ驅リ其妻孥ヲ虜ヘ牛馬ノ類ヲ擧テ負
遁ノ諸城要兵ノ守ル所ノ者ハ皆之ニ敵スル沿
降ル多クハ伽拿的侯ノ官吏等金幣ヲ貪テ自テ
賣ルニ由ルトカヲ瑪塔剌兵員八千ニ過キズ所
テ其二千五百人ハ當時倍察梅察ニ従ヒテ浪烏
児ニ在リ沛徳児ノ兵放ツ所
府ヲ距ル丁庫ニ九英里ナル
方ニ望観シ得ベキ時ニ至テ始テ出発ノ令ヲ将

士ニ下ス沛徳児ノ兵逐ニ
ハ伽拿的侯ノ倉庫ノ在ル所
路之ヲ救ハントスル兵ヲ率テ混窒宅
倍察梅察瑪塔剌政府ノ命ヲ
テ索児、陪克徳ノ軍ニ聯合セ
知拉阿畔ニ次ス其夜大ニ雨
川身漲溢シテ海ンベカラズ沛徳児之ヲ聞キ其
子秩普ヲシテ精兵若干ヲ
ム一千七百八十年第九月六日秩普倍察梅察ト
戦テ利アラズ因テ急ヲ沛徳児ニ告ケ援兵ヲ乞

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

フ梅黎モ亦壕児、陪克徳ニ告ケンレメテノ曰余ガ力竟ニ君ニ混塞宅棟ニ相往フ能ハズ願ハ援兵ヲ得レト索児、陪克徳直ニ全軍ヲ率テ之ニ赴リテ ヲ謀ラズ徒ラニ佐倉蒲刺秩ヲレテ一千百人ヲ以テ往テ之ヲ援ケレメ沸徳児秩魯ノ報ヲ得テヨリ英兵ノ強盛ナラン丁ヲ慮レ懼レ丁太甚レ自ラ謀ルラリ両軍聯合スルニ至ロラバ直ニ亜児島ヲ解テ退ケント時ニ佐倉蒲刺秩佐官梅黎ノ軍ハ共ニ進ミ未ダ昆塞宅棟ノ未軍ニ遭セサル丁僅ニ十数里第九月九日夜佐官梅黎敵ノ来襲ヲ懼レ倶ニ軍中ニ令シテ甲冑ヲ帯シテ臥セレメ沸徳児果シテ索児、陪克徳ノ軍別ニ挙動ノ備ナキヲ窺ヒ乃チ全力ヲ挙テ梅黎ニ當ン夜ニ乗レテ巨砲ヲ配置シ攻戦ノ備巧捷至ラザル処ナシ翌日黎明賈蘇甫全軍勢ヲ合セテ英兵ニ戦度セズ残兵三百人ニ至ルト雖モ猶進闘ヲ要レテ止マズ梅黎力制シテ之ヲ止メ休戦旗ヲ掲ゲ賈蘇甫兵鋭気狂スルガ如ク馳セテ英軍ニ突入シ将ニ其残兵ヲ屠殺シ尽サントス賈蘇甫軍ノ佛将等百方営救シテ止メ英軍ノ待

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

校八十六人此役ニ死傷スル者七十人ニ及ヘリ
付員ヲ失ナヒ全軍悉ク覆没スル若シ孫児陪従
ヨシテ早ク出テ援ケシメバ神徳児ヲ交撃シテ
之ヲ破ラント必セリ然ルニ此時ヤト首将ハ
始テ砲声ヲ聞ケ糧食ヲ焼キ砲礮ヲ渝メ
狼狽隊伍ヲ乱シテ瑪塔剌ヲ指テ奔ル實ニ勇兵
進躡シテ之ヲ窘ム
瑪塔剌政府名ニ一船ヲ馳ラシメ敢死ヲ申告他ニ
通ス時ニ彼士丁克方ニ瑪剌他ノ戦攻ニ皇々ト
シテ傍ラ此英人東漸以来未曾有ノ大敗大辱ニ
遭フ他人ヲシテナシ之ニ居ラ
手ヲ拱シテ亡ヲ待ツヘキニ彼士丁克ノ才謀果
断益、此時ニ顕レタリ當時其人ニ贈ル手簡ニ余
カ英国ノ名声ヲ揮シ公司ノ利益ヲ長セント欲
スルノ素望今ハ則ニ国(加拿大及ヒ英人)ノ為ニ維持セント欲スル一層懇到ナル
ニ其金旬ヲ占ラン吾心願所ノ頃ト雖ト未タ嘗
テ其間ニ繋在セズンハアラズト云ヘリ彼士丁
克瑪塔剌長官ノ暴ニ狼狽児郎ヲ還附セザル罪
ヲ責メテ其職ヲ奪フ大ニ兵衆ヲ募リ後備軍ト

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

罹モ盡ク括取シ軍資十五洛克（ラック）ヲ獲ヘ乙ツノ之ヲ聞ヤマテ全ク出征隊ヲ編成シ宿将索児、爵児、克徳ヲシテ元帥トス克徳ハ二十年前ニ在テ大ニ此地ヲ奉シ佛人ノ権ヲ伽倉的（カンパニヤチック）地方ニ絶ツ者ナリ彼士丁克（スチンカー）又果断ノ措置ヲ取リ銀ヲ公司ニ入ルヽ丁ヲ禁シ更ニ之ヲ出征軍ニ入レ新制ヲ設ケ友等ニ兼ネ軍資ヲ贍スト雖モ猶ホテ尽リ給スル能ハス是ニ於テ始テ公債ヲ起シテ一時ノ急ヲ濟フ

○第廿五編

○瑪塔剌記（マラッタ）自一千七百八十年至八十四年

佐（タスコ）梅黎（パリ）敗北ノ後八週日ヲ経テ索児、爵児、克徳始テ瑪塔剌ニ達スハ一千七百八十一年時ニ兵蒸ノ餘ヲ集ケ境内盡ク鹵掠ニ摧カレ軍需ヲ得ルニ由ナシ故ニ其到着後十週日ノ久シキニ渉リ始メテ進軍ニ着手スルヲ得ス其氷着ハ大ニ英人ノ気力ヲ沮没ニ摧挫シ沖徳児（ホルカル）ヲシテ英人ヲ海外ニ掃攘スルノ為ヲ絶タシメ沖徳児加倉的（カンパニヤチック）ノ統将軍某ノ内應ニ因テ西印度（ウエストインヂス）ヲ陥レ遂ニ進テ孟買（ボンベー）ヲ圍ム英ノ副将噌林（ワレントン）多（ウヲルレー）ノ率ヰル所ノ軍

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

ハズ両軍相持スル丁四月沛徳児適、孫権ノ軍救ン倫普龍ヲ攻テ敗シ退クト聞キ勇兵十倍シ因テ猶徳毛士ワンドワスヲ棄テ、総進撃ヲ謀ン進行一百里ニ日半ヲマヲテ波尓答、諾羅ボルトガルノ境ニ達シ英軍ヲ撃ツ劇戦六時間ノ後沛徳児大ニ敗レ其衆一万餘人ヲ亡フ而シテ英軍ノ死傷三百人ヲ出ズトイヘドモ時ニ一千七百八十一年七月一日ナリ佐官彼児杜孟的沿岸ヲ経テ無難ニ攻略加拉軍ヲ率ヰ叮ニ加拿的ナチ哩昂徳ニ到ル沛徳児孤軍克徳ノ軍疾行一百里ヲ八日ニ日逐ニ西加拉軍ニ

聯合ス沛徳児将ニ全軍ヲ挙テ其帰路ヲ絶ントシト者ニ阿フト者曰某ノ地某ノ日吉ナリト因テ其言ニ従ヒ暁ニ英将梅黎ノ軍ヲ覆シタル處ニ陣シ又其同日ヲマヲテ英軍ヲ撃ツ両軍死闘勝敗判セズ互ニ祝砲ヲ発シテ勝ヲ夜ニ同年九月両軍又燦林湾児ノ野ニ戦フ沛徳児敗績シ其兵五千ヲ亡フ英軍ノ死傷庫ニ一百人其後安モナク克徳全軍ヲ打テ瑪塔剌ニ退キ帰リ又冬候ヲ避リ是ニ於テ沛徳児ノ素謀全リ拝ガレ自フ其亡ヲ救フニ暇アラザルニ至ン而シテ克徳ヲ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

亦軍需ノ竭之ニ苦シミ其謀ヲ逞フスル能ハ
ズシテ帰ル

瑪塔剌（マラタ）政府健々七年間四メビ長信ヲ募ノ其ニ人ハ本院之ヲ黜ケ次ハ議院ノ衆議ヲ以テ廃セラル従来瑪塔剌政府ノ如キ（カルナタ）ハ拿的（ナナ）侯ト雖モ擅ニ処刑スル能ハス故ヲ以テ本院更ニ私党ヲ得テ以テ之ヲ治メント深セサル公正ノ君子ヲ得テ以テ之ヲ治メント欲ス遂ニ公選ヲ以テ洛徳（ラオ）、隣昌徳納（ナンドナ）ヲ推シテ瑪塔剌長官トス一千七百十一年隣昌徳納ハ愛蘭比耳（アイランド）爵名ニシテ風ニ高義ト政理ノオヲ以テ世ノ為ニ重セラル一千七百八十一年六月始テ任庁ニ達シ英蘭開戦ノ報告ヲ廖ケ洛徳、隣昌徳納直ニ和蘭（ホラント）人ニ結ヒ共ニ英人ヲ攻ント謀ル的（ダ）拿ハ是時ニ当テ孤迦（カルカッタ）ニ在リ瑪塔剌ヲ距ル大凡一百六十里洛徳、隣昌徳納大ニ兵及ヒ海軍若干ヲ発シ索（ソロン）岡（ゴール）、陪克徳（ベンクート）、欧格（ヨガ）ヲシテ之ヲ攻メシム同年十一月判軍遂ニ孤巴（カルパ）祖（メン）ヲ抜キ糧食貨物ヲ獲ル丁巳（ママ）ナレハ一千七百八十一年其後二月

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

英軍又蘭領多林埼馬列（西論島第一ノ良港）ヲ拔キ瑪塔剌政府是年ヲ以テ連ニ勝利ヲ得ヘシト雖モ未タ巨萬ノ軍資ヲ費セシ府庫漸ク空乏（カラ）ス能ハサルニ至レル加ノ的ノ歳入盡ク侯及ヒ其債主ノ支消スル所トナリ英人ヨリ銀ヲ捐テ、國別ヲ守護スルノ費ニ當テ其利ヲ得ルノ外ナシ是ニ至テ瑪塔剌政府斷然加拿的別ヲ區分シ其六糸一ヲ侯ニ與シ其餘ハ盡ク收メテ版圖ニ入レ

秋季歩騎各、二万、巨砲二十門ニ將トシテ出テ

的ヲ侵ス一千七百八十二年瑪塔剌政府佐官潘列士維（ブルスヴィリ）ニ屬ヲ遣ハレ梵兵二千ヲ率テ之ヲ救ヒ其等者爺ニ敵ニ通シ之ヲ打テ敵地ニ入ル賓蘇爾（スイリ）兵暴ニ出テ之ヲ掩撃ス英軍サモ居セズ交戰モノ二十八時間衆寡敵セズ遂ニ敗走スルニ千七百八十二年史家密爾（ミル）之ヲ評シテ曰ク史冊ニ載ル所ヲ觀ルニ此等サル英兵ノ剛勇ト忍耐ナリト云ヘリ初副官西濱（アルバクロンビー）敗賈蘇爾兵ノ爲ニ圍マレ丁十八月此ニ至テ突出シテ大ニ之ヲ破リ俘虜一千二百人大砲十門ヲ獲タリ是ヨリ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

佛人懼レテ復タ賈蘇甫兵ヲ助ケズ一千七百十二年而
レテ彼士丁克（スケンデルベグ）ハ謀ヲマヽテ澤諾（ジノ）拿（ナポリ）ノ壁主及ビ徳
カ干（カラブリア）ノ御督ヲ誘フテ合従ノ約ヲ
ハ英人ニ通シ共ニ力ヲ協セテ
馬拉（マラタ）ノ十酋ニ在ル賈蘇甫人
ヲ奪ンコトヲ謀ル沛徳児（ペイドル）大ニ困シ深ク其英人ト
戦端ヲ開クヲ悔ユ一日其等臣ニ言テ曰ク吾千
百ノ梅黎（メイリー）ト普列士（プロシア）ト雄馬（オーストリア）ヲ破ルヲマテ英公司ヲ
覆スニ足ラズ力ヲ能ク其巣窟ヲ陸地ニ覆滅ス
ルモ其海洋ヲ週遊スル能ハズ英人ノ海軍ニ吾
終ニ貴ノ利ニ驕レザルベカラズト因テ歎息スル
之ヲ久ウス沛徳児（ペイドル）其西海岸ノ地境内最弱ノ処
ナルヲマヽテ其全力ヲ傾ケテ之ヲ寧テント
欲スヌ又諸将ニ命シテ盡ク西
之ヲ棄テヽ加拿的（カナダ）ヲ暴掠セシム
過佛艦ノ攻航ニ値テ止ム
佛将蘇甫連（ソフレン）佛国著名ノ海軍将
士ナリ記ニ及林（オルレアン）哥馬列（コルマール）ヲ抜キ降
過フ両軍交戦時ヲ移シ勝敗終ニ決セズ蘇甫連（ソフレン）
逐ニ退フテ波尓多（ポルトガル）諾（ナウ）ニ到リ佛兵二千西加（スペイン）ニ

組精兵一千ヲ率テ上陸ス一千七百八十二年六月索児(ソルデー)、衛児(ガード)、乾徳陸兵ヲ以テ咄(ポンディシェリ)ニ在リ南辺ヨリ攻テ其塁下ニ戦フ勝敗未ダ決セズ沛徳児(ペイドン)盡ク其糧食貨物ヲ出シテ他処ニ輸送ス英軍獲ル所ナフシテ去ル此際ニ於テ英仏軍艦再ビ戦テ共ニ勝ナシ蘇連(スフレン)其諸艦ヲ修繕シ孚テ南行ス乾ニシテ仏国ノ新兵又来テ加(ガ)列ニ上陸ス洛徳(ロルド)、難島徳納(ナントヲ)之ヲ援ケ攻ル十数林(ダース)埼馬(ボマ)列及泥迦(ポンディシェリ)巴祖(パメル)ヲ失ン丁ヲ懼レ賛士(フェス)ニ請ヒ兵ニ多林(ダース)馬列ニ赴キ援メ之ニ備ヘントス賛士ハ其干

海ヲ西シ遠ク避ケントシテ倫ヤリ進ム其海口ニ到レバ則チ前四日其地乾ニ陥ル両国(仏英)ノ軍艦又戦フ勝敗復タ決セズ是ヲ以テ本年ノ第四回戦トス是歳陸軍ノ挙動最モ称ス見ルベキ者ナシ而シテ海軍ハ則チ最モ活潑ヲ極メタリ多サノ破損アリ賛士(フェス)ノ軍艦劇戦四回ヲ経テ多サ(マダガスカル)ニ還ルヤ孟買(ボンベー)ニ往テ修繕ヲ加ヘント欲ス洛徳、難島徳納(ナントヲ)ノ如キハ吾公司ノ事是ヨリ去テ止メテ曰足下如シ仕ヘバ吾公司ノ事是ヨリ去テ沛徳児(ペイドン)ハ加拿的(カナダ)ノ挙ゲ頭ヲ延テ待ツ所ノ勅(ブレベ)ヲ以テ不日大軍ヲ率テ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

来り彼ト勢ヲ合シテ陸戦ノ命ヲ制シ蘇甫連(スエズ)ハ
勢ヲ海洋ニ専ラニセバ吾瑪塔剌(マルタ)全土糧食ノ給
ヲ海陸ニ絶チテ生霊皆講中ニ枯死セント辞気
慷慨聴ク者之ガ為ニ悚然タリ然レドモ憤士(フエヌス)耳ヲ
掩テ関カズ一千七百八十二年十月十五日盡ノ
艦隊ヲ率テ去ル其夜定(モンス)ル大ニ起リ船舶ノ破没
スル者勝テ数フベカラズ権ニ残材水濱数里ノ
間ニ狼藉ス珠ニ未嘗ヲ載スル運漕船一百餘艘
ヲ失フ其後四日提督比給児(ビケンドン)裏大艦隊ヲ引率シ
テ英国ヨリ来リ就ニ士率四千ヲ上陸スルノ後

瑪塔剌政府ノ懇請ヲ用キズ固ノ水隊ニ聯合セ
ザルベカラズトキテ亦憤士(フエヌス)ノ後ヲ追フテ去ル
瑪塔剌府中就ニ窮食ニ苦レム而レテ郤村ノ民
河徳児(ハイドン)ノ暴掠ニ罹リ身ヲ脱レテ府内ニ遁レ来
ル者項背相望ミ餓死スル者時ニ一週間一千五
百人ノ多キニ至レリ就ニレテ陳児、衛児、克徳軍
中疾ヲ得テ逼加拉(ジブラルタル)ニ退ク時ニ定(モンス)ル凡ニ属レ海陸
ノ戦闘姑ク中止ス

一千七百八十三年第二月 蘇甫兵(スエズ)徳黎拿(ドリナ)里ニ
敗績スル後ハ佐治奔伯(ジョルジュボン)児士(ロバートソン)教(スト)総将軍ヲ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

リ兵ヲ率ヰ連リニ進デ彼ノ城寨ナリニ到リ将ニ之ヲ攻ント
ヲ聞テ退軍セントス沛徳児兵ヲ率テ之ヲ追ハントス秋普疾行数日遂ニ英軍ニ
肥尼亜ニ追及シ四軍ヲ作テ之ヲ撃ツ利アラズ
北スト雖甚多シ秋普自ラ謀ルラク攻撃ヲ止
メ姑ク之ヲ圍テ砲礮ノ至ルヲ待ツニ如カ
ズト因テ之ヲ圍ム十二月十一日夜遁、飛報アリ
其文ニ曰ク常ニ勝克スル沛徳児ノ精神浄土ニ遊
レ去ントス即チ計報ナリ翌日賢イ蘇甬ノ軍囲ヲ撤
シ盡ク西海岸ニ向テ去ル沛徳児多年ノ兵戦ニ
疲頓シ瘡又其脊ニ発スル一千七百八十二年十二
月七日印度史冊ニ於テ賢能多謀ノ称ト英主ノ
名ヲ留メ寿八十歳ヲ以テ軍中ニ死ス
子亜細亜ノ兵其君主ヲ失フ時ハ乱レテ愛ヲ
謀ルヲ常トス沛徳児ノ死スルヤ太子秋普立テ
四百里ノ外ニ在ルヲ以テ其勢最モ危シ賢相攸納深ク意ヲ此ニ留メ慎テ喪ヲ秘シ其臓腑ヲ
去テ之ヲ西中ニ歛メ宛ヤモ敵国ニ獲ラル所ノ
物ノ状ヲ為シ之ヲ撒倫加巴（塞北ノ地名ナリ）ニ輸送スルノ

今ハ皆帝徳児ノ名ヲ用ヰ其輜ヲ閉ヂ日々営内ヲ繞レテ之ヲ出ス供奉ノ数亦僅ニ累ナラズ故ニ人亦其兇ヲ疑ハズ禍乱由テ生スルニ無シ然モナリレテ秋普遍テ陣中ニ至リ厚ク将士ニ賜ヒ然後住ニ即ク時ニ国運隆昌庫ニ格洛児ヲ蓄ヘ精兵十万数フベカラズ将軍斯委毛徳漆児衛児克徳ニ代テ統将軍タリ其人ト為リ執拗硬戻カツ人ニ才能ニ乏シ洛徳、蘇昌徳納始テ帝徳児ノ兇ヲ聞ヤ名ニ其擾乱ニ因テ買蘇甫ノ陣営ヲ襲フベキヲ慮ル斯委毛徳固ク其訛傳ナルヲ言テ聴カズ遂ニ以テ不易得ノ好機會ヲ失フ斯委毛徳将士ノ精輸重ノ駄多ナルヲ覚ニ克徳ニ迫ニ而レテ空レノ六十餘日ヲ経過シ之ヲ憂フ買蘇甫軍飛報ヲ得タリ曰英軍方ニ西種ニ至ルト秋普大ニ懼レ将ニ至テントスルヤ蘇汗ノ援兵ヲ待タズ頓ヤニ営塁ヲ破リ陣ヲ撤シテ西ニ去ル一千七百八十二年是ニ由テ英人ノ掛慮始テ釋ク

一千七百八十二年四月十日 佛将蘇汗可陀洛ニ

着航シ其兵ヲ給ブ歩兵二千三百騎兵五千人ア
リ秩序整備ニシテ千五百人ヲ参シテ之ニ會セシム
勃士現ビズ将軍斯毛咀徳今ハ苟且安ヲ偷ムニ
由ナシ因テ歩騎兵一万四千人砲手一隊ヲ率テ
可陀洛ニ進軍ス英軍兵多クシテ且精シク又資用ノ
饒ナル瑪塔剌速ニ以来常ニ一ト称スル所ノ大
将其人ヲ得ザルニ在リ故ニ将校ヨリ卒伍ニ至
ルマデ皆先将軍ヲ愛慕シ速ニ来テ之ニ代テン
コヲ望ム而シテ添児、倚児克徳彼士丁統ノ勧教
ニ従テ瑪塔剌ニ還リ二日ヲ経テ死ス計至ル一
日ニ行軍僅ニ十二里六月七日
軍暖悼セザル者ナシ英軍継テ
逐ニ可陀洛ヲ圍ム向月十三日勃士圍ヲ衝テ来
戦フ大砲十三門ヲ先フテ敵績ス此役ヤ英軍其
軍官六十八人歩兵九百二十人ヲ先フ故ニ勝克
ノ名損七ノ實ハヲ償ハストス是日蘇甫連軍艦ヲ
率テ可陀洛ノ沖ニ至ル英ノ軍艦隊慶撃シテ大ニ
戦フ又決セズシテ止ム實ニ瑪塔剌ニ向フテ去ル蘇甫連因テ水兵二財四百人ヲ
発シ勃士ヲ援ク同月廿五日勃士又突出シテ利
アラズ多クノ士卒ヲ先フ斯毛徳始メ仏軍ヲ圍

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

ミレヨリ二週日ヲ経ルト雖モ伝然更ニ計畫ス
ル所ナシ而シテ軍中病ム者傷ヲ受ケ者死ス
者疲レ者日々加ハリ兵員益減ス孛士突出
ノ如キヲ見テ静カニ彼ヨリ挑戰スルヲ待ム
ント欲スル因テ囲守ノ計ヲ為ス若シ斯丟兎徳ヲ
シテ此計ニ出シメバ惟ダ敢ヲ取ルノミナラズ
遂ニ瑪塔剌ヲ失フノ疑ヒナン然ンニ幸ナル哉
英佛講和ノ吉報遍ク至リ両軍互ニ解キ去ン
ハ千七百千秩魯ノ軍中僅ヌ一人ノ佛兵ナン砂メ
斯丟兎徳ノ亜賈故ニ将ニ沛徳児ノ死ヲ図ラント
詭計ヲ逞フシ至リニ洛徳、比昌徳ヲ繋因

ス
故ニ其瑪塔剌ニ還ルニ及ンデ洛徳、蘇昌徳納
縛シテ之ヲ英京ニ送致ス
亜賈政府沛徳児ノ死ヲ図
賈蘇尓ノ伯篤諾児ヲ接ケ将軍沫肯ニ命シテ
ヲ争ヘドモ聴カズ強テ之ヲ遣ン沫肯其不可ナル
西嶺ニ登ル山面所在ニ塁柵ヲ施コレ厳ニシテ
進ムベカラズ第四十二隊ノ兵勇ヲ振ヒ礮ヲ去
リテ進ム全軍コレニ従フ始テ伯篤諾児城下ニ
至レバ国ラズ城兵皆出テ降ン一千七百砂メ
城将某罷ヲ先君沛徳児ニ愛ケ太子ト隙アリ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

普位ニ即ニ又ンデ書ヲ伯篤諾児ノ一官吏ニ齎
リ諭レテ城将ヲ屠セレム且曰若シ命ヲ受ケズ
ンバ之ヲ殺セト官吏書ヲ城将ニ示ス城将斃ク
敢テシント欲スト是ニ至テ英軍ニ降ル沫肯記ニ勝
テ軍令ヲ厳ニセズ故ヲ以テ麾下ノ兵四散剽掠
憚ル所ナシ秋普時ニ出テ東方ニ在リ此報ヲ得
ルニ及テ即日程ヲ発シ前文ニ所謂名ニ信望ヲ
テ去リテ帰スルトハ此ヲ
英軍ヲ攻テ之ヲ復ス時ニ伯篤諾児全境
荒蕪ニ傍シ復タ一物ヲ餘サズ秋普精兵十万大
砲百門ヲ率ヰ嶺ヲ下テ蔓蕗路(ブルゴーニュ)ノ国ムヲ冀四十二

隊ノ将佐官(コロネル)廣伯児(ブルゴーニュ)歐兵七百梵兵二千ヲ率サテ
死ヲマツテ之ヲ打ツ丁九月死傷相陣キ終
ニ餘卒八百五十人ニ減有スルニ至テ始テ降ル
秋普大軍ヲ以テ區々タル小兵ト抗戦シ曠日弥
久為ニ其兵跡ト半数ヲ失ナフ故ニ小城ヲ得テ
大ニ其声気ヲ損ズ
秋普蔓蕗路ヲ圍ム時ニ當テ瑪塔剌政有其暁将
佐官(コロネル)福拉裏(フラヒエル)ニ命シテ五百人ヲ以テ深ク
入セレム一千七百八十二年福拉裏記
ニ沈勇額多(パルチザン)ノ中部ニ侵入セレム河但巴(ガロンヌ)要部(ボルドー)ヲ攻
ント将ニ長駆シテ潰(イ)

蘇甫ヲ衛ヤントス適、瑪塔剌政府急使ヲ遣ハ
シ盡ク侵地ヲ還シ姑ク兵ヲ動ヤスコトヲ得サラ
シム初メ瑪剌他政府撒買ノ盟約ニ基キ買蘇甫
主英人ト和スルヿヲ肯ンセヤ而ルヲ茲ニ将ニ之
ヲ討セントシ先ツ其意ヲ瑪塔剌ニ告ク長官路德
蘇馬徳納素ト秘情ニ暗ク之ト和議ヲ謀ルト雖
モ常ニ無効ニ属シ其確定ヲ望ムベカラザルヲ
知ラズ以為ク彼瑪剌他ノ征討ヲ懼レテ和ヲ講
セバ吾利コレヨリ大ナラントハナレト因テ彼士丁
人ノ諭命ニ従リ擅ニ使ヲ遣シ秋普ヲ勧ム
ルニ講和ヲ以テス其姑ク
メんハ其容辞ヲ待ツカ為ナリ
秋普瑪塔剌ヲ軽ンジ故ラニ答辞ヲ遷延スルヿ
二月先ツ智士ヲ遣シ以テ
政府果シテ大使ヲ発シ
ラシム秋普乃チ瑪塔剌政
和ヲ乞ハシムト宜言シ之
大使憤懣還リ報ス院ニシ
智士ト争論ヲ聞リ議院両
佐官福拉敦ニ命シ盡ク其侵地ヲ還附シ兵ヲ

テ帰ラレム彼士丁克深ク梵情ニ通ジ瑪塔剌ノ
終ニ彼カ術中ニ陥ラレテ丁ヲ憂ヘ彼ノ二大使ニ
因テ講和ノ議ヲ排駁シ今日ノ事一ニ猶太教ノ
意向ニ任シ彼ヲシテ坡下ノ盟ヲ乞ハシムルノ
便ナルヲ主張スト雖モ嘗時彼士丁克新ニ本院
ノ譴責ヲ受ケ議員等亦院ノ旨ヲ忌ケ揆ヲ之ニ
皆ノヲ以テ其説遂ニ行ハレズ是ニ於テ講和ノ
事事テ瑪塔剌官吏ノ意中ニ帰シテ最モ申酉愚
拙ノ旧態ヲ顕ハセリ

瑪剌他塔剌官吏深ク爵ノ二大使ヲ召シ陵虐至ラザ
ル所ナシ偏ニ之ヲ国内ノ演劇場ニ衒テ公
衆ニ徇示スルニ至ル漫言路(ママ)陥ルニ及ンデ之ヲ
(ママ)
買嘉爾軍ノ営ニ送致ス秋普海ニ紋首梁ヲ置キ
倫厚スル所アリ挙テ侵地ヲ還附スルノ主義ニ
基キ終ニ和約ヲ按印スルニ千七百十四年之ヲ雫スル
此挙ノ恥ツヘキ丁夫ノ十五年ニ氷瑪塔剌ノ長
官及ヒ議院等屢施行スル所ノ矣措ニ感ゼズ且
此挙ハ公司ノ光栄ヲ損スルノミナラズ俾セテ
国安ヲ害スト云フモ可ナリ何トナレバ是ヨリ
秩普ノ驕慢殊ニ甚シク毒ヨリ毒ニ異ヨリ異ノ戦闘ヲ馴致

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

スルヲマテナリ秩普噌テ曰「英国ノ使臣帽ヲ脱シ盟章ヲ捧テ王ヲ謁言媚色謹テ允准ヲ請ヒ拝
拝及ヒ海徳巴把ノ使臣相倶ニ叩頭コレカ寿ヲ
哀求ス上帝ノ嘗影ヲ以テ脱其誠意ヲ愍ミ終ニ批
准ヲ賜フ」ト其驕傲率ヨ此類多シ」

○廿六編

○大審院○智徳、普魯西(ドイツ)ノ一国ニシテ欧人ノ歴制ヲ免カレ欧人ヲシテ欧人ノ自
○英京ノ景況 国ノ法律ニ受ルヲ得セシメ其審判ニ盡ク本国
緒 上等裁判所ノ特許ヲ以テシ英国ノ成法ヲ施行ス
此編復タ陸物(ヒジカン)ノ事跡ヲ記ス英政府一千七百 ルヲ許シテ更ニ甲谷(カルカッタ)他ニ置キマヲテ梵民
七十四年始テ大審院ヲ甲谷(カルカッタ)他ニ置キマヲテ梵民ヲシテ欧人ノ歴制ヲ免カレ欧人ヲシテ欧人ノ自
国ノ法律ニ受ルヲ得セシメ其審判ニ盡ク本国
上等裁判所ノ特許ヲ以テシ英国ノ成法ヲ施行ス
ルヲ許シテ更ニ甲谷(カルカッタ)他政府ト審院ノ間ニ権限
ヲ定メス是ニ於テ両者ノ軋轢始テ起ル初メヤ
ヒンダ土地ヲ有ス人借地ノ租税ヲ
徴収スルニ常ニ苛酷ノ措置アリテ其来ル既ニ久シ審院開立スルニ及ンテ付
訴ヲマテロヲ糊スル者所在ニ散居シ住ミ人ヲ
教唆シテ之ヲ告訴セシム「テイホット」アリ之ヲ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

ニ託シテ其「セミンダル」ノ暴ヲ訴フ大審院直ニ之ヲ受理シ極テ「セミンダル」ニ不利ナル嚴法ヲ定ム是ヨリ「セミンダル」ノ害訴ヘテ甲谷他ニ致シテ紳治ス其ノ式保釈銀ヲ出スヲ肯ゼズ若シハ出ス能ハザル者ヲ獄ニ繋ギ若シ拿捕スル所甚罪ニ非ズト雖モ審院曾テ矢費ト恥辱ヲ償フヲナシ是ニ由テ別内ノ人皆危懼ヲ懐キ物情洶々瑪剌他入敢テ来ラス十年間未タ嘗テ見ザル所ナリ「ゼミンダル」等拿捕若シハ其他ノ厄辱ヲ受ケ毎ニ其信用ト権勢ヲ失ヒ「ライオット」ヲ缺クノモ罪ヲ得ズ「ライオット」証告ノ罪ヲ以テヲ繋獄セラルヽ者アレバ付訴者之ニ教ヘ人身保護律ニ倚テ保釈銀ヲ出サレバ一ヶ月甲谷他ニ牽引セラレテ放免トナルヿセミンダル」等交、此措置ノ不正ヲ鳴ラシ遂ニ之ヲ口實トシテ年租ヲ出サヾ時ニ甲谷他政府事ヲ供給ヲ地租ニ仍リ故ニ歳政之ヲ毎ニ大ニ困乏ス初徳干都督「マドラス」亜細亜「アジア」州之千万人ノ刑政ヲ統ヘ武法及行政官ヲシテ専ラ之ヲ掌ラシムルニ至テ、

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

大審院法官大ニ別内ニ会シテ曰徳干都督ハ猶ホ水倆人ノ如シ曾テ孟加拉人民ヲ屠刑スルニ権勢ヲ有セズ都歎判所ノ発令ハ魔王ノ命令ト同シク更ニ些サノ顧慮ヲ有セズ又東印度公司ハ孚蒂賀男ニ関スル権力ヲ除クノ外印度大陸ニ向テ別ニ権力ナキ者トス印度総督ハ法律ヲ施行スル権ナシ今ヨリ後ち大審院ノ令ニ従ハザル者絶督以下官吏ニ至ルマデ目シテ有罪ト為スベシト此外ち数ヶ条ヲ読ミ終テ徳干都督及甲谷他政府ヲ陵辱スベキ者知テ為サバル所ナシ此発令ハ大審院ノ一局面ヨリ之ヲ観レバ或ハ公正ノ理アリテ当然ノ所為ナルベシト雖モ政治ノ全局是ガ為ニ破ラレ国刑治ト無政ノ乱状ニ陥リ

大審院ノ猖獗益甚メシ混沙克(地名)甲谷他ヲ去ル一遠レ審院管轄ノ外ニ在リ一梵人其刺沙ヲ訟フル者アリ一千七百十一年審院直ニ都吏二人ヲシテ辛八十人ヲ発シ各銃器若クハ刀釵ヲ帯ビ往テ「刺沙」ヲ縛致セシム都吏ノ一行突然其地ニ至リ大ニ暴残ス「刺沙」面ヲ得テ遁レ去ル彼士丁克ハスナレバ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

之ヲ図テ以テ吾ノ政府ノ権ヲ復シ治下ノ民庶ヲ保護スル此時ニ在リト因テ歩ヲ発シ即吏署ノ帰路ヲ要シテ之ヲ押絡(カドワカシ)ス他ニ帯行セシム大ニ管内ニ告示シテ曰自今以上ハ曾テ服従ヲ約スル土地ヲ有スル者ニ非ン以上ハ曾テ審院ノ管制ヲ受ル理ナキヲ明知セヨト審院深ク之ヲ悪ミ務メテ給督(ママ)シ彼士丁統及ヒ議院ヲ害スル措置ヲ謀テ止マズ遂(ママ)加拉(ニカラ)ノ政大ニ乱レ人民帰ラン所ナレ是ニ於テ欧洲在民文、剌国ノ国會ニ哀訴シ以テ匡救(ママ)ヲ求ム但深俸給ヲ拒絶シテ受ケズ奮然新職ニ就キ計畫ラン所アリ我ノナラズンテ大審院事務ノ弊盡ノ除去シ大切貽ト成ンニ率シトス適〻龍動(ロンドン)ニ来ル又國會此擧ヲ以テ君テ之ヲ幽スニ非當トナシ回并ヲ以テ深ニ説ニ及テ新制ノ遂(ママ)加拉(ニカラ)別ヲ利スル浅ナラサルヲ見テ反テ奮励ヲ加ヘテ之ヲ救ス彼士丁克新ニ治制ヲ警革シ任用スル所ノ

請フ八千七百十年彼士丁克ホ深ノ意ヲ救済ニ留メ「スウドル、コウルト」(大審院)ノ判事長楽児(ラリヤ)、但深(ダニエル)并ニ「公司」ニ説キ月俸七千「児弗(ルピー)」ヲ以テ司法総理ヨラレテヲ求ム但深俸給ヲ拒絶シテ受ケズ奮然新職ニ就キ計畫ラン所アリ我ノナラズンテ大審院事務ノ弊盡ノ除去シ大切貽ト成ンニ率シトス適〻龍動ホ院又國會此擧ヲ以テ君テ之ヲ幽スニ非當トナシ回并ヲ以テ深ニ説ニ及テ新制ノ遂(ママ)加拉(ニカラ)別ヲ利スル浅ナラサルヲ見テ反テ奮励ヲ加ヘテ之ヲ救ス彼士丁克新ニ治制ヲ警革シ任用スル所ノ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

者皆其人ヲ得メリ勉レ民事創始ニ係リテ吏務
漫トシテ整ハス司法綜理困難(クルシミ)乃チ其施行ノ林
裁ヲ制定シ吏務ヲ整頓ニ帰セシメ彼士丁克之
ニ継テ律令ヲ刪定シ明精簡易最モ梵人ノ習俗
ニ適スルヲ以テ印度政府其遺制ニ率由シテ今日ニ
至レリ

財政ノ困之レ年以来是年ヲ最モ甚シトス是時
ニ当テ蘇爾(ソール)兵ノ加拿的(カルナチク)ヲ侵掠スルアリ瑪剌(マラタ)
他(タ)ノ又妥スルアリ仏蘭西ト和蘭陀人ト開戦ス
ルアリ兵禍一時ニ相継テ而シテ孔百ノ経費一
ニ甲各他(カルキュッタ)政庁ノ支出ニ係ル故ヲ以テ府庫殫渇
シテ儲ス所ナシ因テ重債ヲ起スト雖モ故府ノ
信用薄クシテ満カノ用ニ足ラズ彼士丁克乃チ
活路ヲ外ニ求メ以テ一時ノ急ヲ緩フス印度
憲法ニ據レハ土地ヲ借ル者ハ莫大ノ資ヲ出シ
テ其地主ノ非常ヲ救フヲ法トス彼士丁克(ラビヤ)此(コ)
智徳(チト)、普他(ブンダ)ノ祖父ノ時ノ乱ニ乗シ自(ジ)挙(キョ)士刺沙(サラサ)
テ岡泥(ガンデ)侯ニ隷属スル(ヲ)仲朝(ボンベイ)士ノ(ヲ)(ス)
国土ヲ公司ニ譲興(ヨ)セシム因テ地券ヲ「刺沙」ニ付
シ制ヲ定メテ年貢二十二「洛克(ラック)」ヲ収ムヲ以テ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

彼士丁克（ハスチンダス）即咯ニ基キ智徳普克ヲシテ軍資五洛ヲ
克騎兵二千ヲ出シテ伯咯（ハんス）成衛ノ役ヲ助ケシム智徳普克辞スル
ヲ得ズ當初ノ約ヲ履ミ軍資ヲ出スト雖モ遂ニ貧窮ヲ名トシテ復メ支出ス
ル無キヲント請フ彼士丁克素ヨリ其富厚ヲ知ル
乃チ其辞避ヲ指シテ有罪ト為シ額ノ科銀ヲ
課シテ其罪ヲ贖ハシメ遂ニ其罪ヲ寄貸トシ更
ニ兵丈ヒ軍糧ヲ出サシメシ（ヲ）テ伯拿士（ハんス）ニ往リ一千七百
一十ヲ糞ガテ（ンテ）射親ラ之ヲ擒ヒ（ヲ）謀ル彼士丁克親
子ヲ質トシテ智徳普克ヲ迎ヘ因テ二十
洛（ラク）ヲ獻ズ彼士丁克之ヲ郤ケ更ニ五十洛（ラク）ヲ
要求ス其都城ニ入ルニ及ンデ智徳普克ノ罪ヲ
條記シ其率フル所ノ梵卒二隊ヲ遣ハシ往テ之
ヲ縛セシム都中ノ人相率テ梵卒ヲ攻
テ害リ之ヲ救ス梵卒時ニ兵器ヲ齎ラサズ故ニ
吏卒一人ノ免ルヽ者ナシ智徳普克間ヲ以テ
得ノ河ヲ渡テ遁ル伯拿士（ハんス）都人素ヨリ慓悍ト
称ス殊ニ當日ノ如キハ人情洶々激忿當ルベカ
ラザルノ勢アリ而シテ彼士丁克盡ク手兵ヲ亡
ナヒ猶リ随行ノ紳士三十名ト共ニ其間ニ孤立

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

レ時ム所ノ者將リ腰間ニ尺ノ劍アルノミ彼士丁克ノ危難未ダ此時ヨリ甚シキ者アラズ人々皆必死ノ念ヲ以テ其衆ヲ侍ツ然ルニ幸ナル哉都人ノ梵卒ヲ鑒ニスルヤ直ニ轉シテ河ヲ渡リ遠ニ智德普克(ジェトレン)ノ後ヲ追フテ去ル然レドモ敵亂ノ気尚全境ニ溢レ虎視眈々動モスレバ來攻セントス彼士丁克(ハスチダス)寄ニサモ屈セズ恰モ其甲容(カンモウ)ノ如ク一般征客事ヲ視ル平日ニ異ナラズ殊ニ普諾(レンドン)ト共ニ撒賀盟約(サクセイ)ノ議ヲ完成シメントス實ニ此際ニ在リトキハ普若(レンドン)ク彼士丁克ノ危狀ヲ知テザルニ非ズ而シテ固ク信義ヲ守リ斷然盟書ニ捺印シテ疑ハザルハ彼士丁克ノ膽量ト共ニ称シテ千古ノ傳フルニ足レリ記ニシテ接兵四面ヨリ來リ倉ニ大ニ勢ヲ得ントス雖モ彼士丁克終ニ免ルベカラザルヲ計リ一夜窓中ヨリ脫出シ船ニ搭シテ纔那甫(チュナン)ニ遁レ去ル

智德普克兵二萬ヲ聚メ親ラ將トシテ英兵ヲ擊チ連戰皆敗レ城寨相踵テ陷リ獨リ律顧兒(リッジョン)城ノミ尚ホ全ク保ツヲ得タリ然レドモ智德普克(ジェトレン)ノ兵ニ至ラン此城固ヨリ藏スル所タリ故ヲ以テ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

防守固ク堅シ英軍進テ之ヲ攻ムル数次ナルモ智徳晋克ノ大膽ニ城ヲ出テ降ン英将副将軍勃漢(ブルハム)記ニ律類(ルイ)ノ如シ

城ヲ収メ余ヲ彼士丁克(ハスチングス)ニ請フ彼士丁克書ヲ裂テ之ヲ指揮ス書中適〻不了ノ語アリ勃漢(ブルハム)之ヲ奇貨トシ大ニ城中ヲ掠メ又吏辛ニ賄賂(ポツプハム)ス其価約(ラヲ)四十洛克(ラク)ニ及ブ一千四百八十年彼士丁克初此城ヲ得テ財政ノ困之ヲ救ハント欲スルヲ以テ大ニ怨多スト雖モ五洛克(ラク)ノ支給ヲ全クセザルヲ以テ十倍罪ろんヲ免カレズ終ニ国家存亡ノ秋ニ方リ私ヲ先ニシ公ヲ後ニシ主国ノ要求ヲ辞シテ力ヲ供助ニ致サヾルハ国ヲ利スル智徳晋克ノ罪ナリト雖モ五洛克(ラク)ノ支給ヲ全クセザルヲ以テ十倍ノ利厭ヲ課スルハ亦苛酷ノ處置ニアラズヤ故ニ識者往〻此挙ヲ以テ彼士丁克執柄中ノ一汚点トス

彼士丁克既ニ望ヲ智徳晋克ノ金庫ニ失シテ而シテ兵ヲ出スニ十六万人経用既ニ竭キテ支給スルニ由ナシ公司閣ニ兵ヲ闕(オク)ノ一格洛(ろん)児半ノ巨額ニ至ル彼士丁克乃チ自ラ往テ其清辨ヲ促ガス閥泥(カデ)侯出テ一銭挪(ナ)用ニ逮

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

ヘ之ニ言テ曰吾國幣託ニ堪キ清辨ス人能ハズ
予ガ力復英兵ヲ庸フベカラズ請フ今日ヨリ庸
兵ヲ止メン且曰「伯拿地士刺」ノ夫人甚ダ富ム
若シ総督府ノ許可ヲ受ケ其貯藏ヲ奪フ丁ヲ得
バ健テ負フ所ヲ公司ニ償ハント是際ニ於テ法
官班泥遍此夫人ヲ詰ヘテ曰智徳嘗テ敵ヲ教
ヘ現ニ兵衆及ビ軍資ヲ供給スト彼士丁克声ニ
日下ノ窮之ニ迫テシ侯ノ請求甚ダ理ニ悖リ班
泥ノ詐赤證跡ノ徴スベキ者ナキニ拘ハラズ強
テ名義ヲ立テ夫人ヲ敢テ公司ニ赦シテ兵ヲ
動カスノ罪アリ班泥侯ノ寛請赤辞スルニ忍ビ
スト声言シ斬処侯ノ請ヲ許スニ千七百八十二年候乃チ
兵ヲ遣ハン其宇吏二人ヲ縛捶シ窖中ニ七十昼夜
克ヲ得テ甲谷地ニ送致ス此擧動ハ實ニ彼士丁
克ノ不正ニ帰セサルヲ得ズ然レドモ深ク咎メ
ベカラザル者アリ何トナレバ此夫人ハ此金幣
ヲ所有スベキ正経ノ権ナケレバナリ此額ハ素
ト伯拿士ノ國幣ニ係シ公費ニ供スル者ナリ然
ルニ十年前甲谷地政府委ニ印章ヲ鈐シテ其所
有権ヲ夫人ニ予フ彼士丁克豈ニ此事由ヲ知ラ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

故ニ唯ダ其過ヲ知テザルノミナラズ交テ正人
君子ノ非議スル者ヲ笑フルニ至ト雖モ内外
ノ交際ニ関スル徳義ノ理論稍ヤ確定セントスル今
日ニ在テ総令彼士丁克ノ此ニ出ル所以ハ實ニ
公司ノ寄ニ謀ルノ誤ニシテ私慾ヲモ私利ヲ
雑ズト雖モ衆論皆之ヲ曲トス
此等ノ施寄ハ厳ニ寵勇水院ノ譴責スル所トナ
リ一千七百八十三年総督ニ傚ヒ議員等水院ノ旨ヲ奉
ヒ相率テ之ニ抗ス彼士丁克現ニ印度総督ノ
任ヲ帯ブ而シテ議堂ニ孤立シ毎言皆排却セラ
レ諸梵主ハ則チ其廉黙ヲ宣布スル遂ニ憤懣ノ餘
リ三月二十日書ヲ水院ニ呈シ退職ヲ請フ其文
ニ先ツ赴任以来忍耐ト寛容ヲ以テ諸種ノ汚辱
ヲ甘受シタル事跡ヲ列記シ然後ニ解任ヲ求ム
ル由縁ニ及フ一千七百八十四年月ヲ爐洛脳ニ
至リ水院ノ命ニ倚テ盡リ侵地ヲ恢拿士ノ大人
ニ還附シ又闕泥侯ト共ニ従来ノ計算ヲ整頓シ
畢後ニ官部ヲ去リ告別ノ書ヲ其親書スル所ノ
諸梵主諸酋長ニ贈リ一千七百八十五年第二月ニ
ヲ以テ搭船ス

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

彼士丁克（ヘルチンクス）帰朝スルヤ英帝夫妻ノ懇待ヲ受ケ
ミナラズ謹責ヲ加ヘメル水院大小ノ吏員ト雖
モ礼ヲ厚フシテ迓リ賀シ一人ヲ除ク外内閣大
臣皆愛慕ノ意ヲ表シ爵ニ至ルノ如キモ今ハ頌譽ヲ
議院ニ排斥シメン歟（ヘルチンクス）ト即チ英廷ノ故世主トイフニ至レリ大宰相（ピット）的深
ク之ヲ忌ミ陽ニ其才能及ヒ功庸ヲ称讃スト雖
モ終ニ奏請シテ其殊勲ヲ表スルヿヲ省セス陪
臣（ヘルチンクス）多年国事ヲ印度政略ヲ研究シ彼士丁克ヲ
シテ仇讎ノ如シ遂ニ已ムヿヲ得ス翌日無双
ノ深讐（ヘルチンクス）ヲ借リ下議院ニ
於テ其行事ヲ非議スト下議院ハ其衆決ヲ以テ其
罪二十二條ヲ列シ之ヲ上議院ノ審判局ニ告訴
ス一千七百八十六年今其罪案ヲ観ルニ惟タ略地（ロヒルコント）
戦ヲ開キ賄賂（ペキュニヤト）ヲ貪リ及其夫人ノ財寶ヲ掠
奪ラントノ二條ハ甚タ深厳ニ中ル者トス自餘ハ
單ニ佛説（フアンレスト）ノ誣誣（ヘルチンクス）トイフモ可ナリ一千七百八
十八年第二月十三日始テ審判ヲ開リ是日帝后
太子諸公主及ヒ諸親王ヨリ公侯貴臣ニ至ルマテ
皆制服ヲ着ケ西門斯的（ウエストミンスト）ノ法廷ニ臨ミテ審判

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

ノ景況ヲ観ル而シテ福基士（フランクリン）及ビ維徳般（ワシントン）等ノ如キ英国ノ史上ニ燐々タル一時俊才肩ヲ並ベテ下議院ノ列ニ此堂ニ集會場中ニ罪人ヲ牢引セラルヽ者ハ誰ソ彼ノ民ヲ統轄シタル摂令、彼士丁克（チャールス）ノ僻観瞰世ノ奇事トス此審判ノ事務ハ一ニ維虞士（ウィリアス）克（ウィルキンソン）民権拡張ノ擔當ニ帰シ其理事ノ精巧ナル實ニ比類ヲ見スト雖モ未無比ノ毒ヲ逞フシ彼士丁克ヲ目スルニ乱ソ天下ノ悪称盗賊甚ダ

ヨリ俗語俚諺ニ至ルマデ苟モ文学ヲ興フヘキ者ヲ以テシ英國ノ言語未タ其大西ニ適スル者アラズトセサルニ至ル然ルニ此審ヨリ遷延七年ニ渉リテ終ニ無罪ニ決シ庭籍ノ榮ヲ蒙ルト雖モ等ニ十洛克（ポンド）ヲ費耗シ負債尚ホ自ラ保ツ能ハザルニ至ルニ千七百七十五年

史家大家（ジョンソン）甫ハ痛ク彼士丁克ノ行政ヲ悪ミ而シテ其人物ヲ評スルニ至レバ之ヲ推シテ古ノ述公司ノ任用スル給督中右ニ出ル者ナシ又彼カ如キ悪党ノ艱難実ニ

然ルモ屈撓セザル者アリ
三ノ措置ハ固ヨリ人議ヲ免レサルモノ有ト
雖モ後来ノ論者多クハ眼ヲ其経歴ノ主局ニ注
キ大功ヲ揚ケテ小過ヲ没シ當時著名ノ政治大
家某氏モ亦彼士丁克ハ固ヨリ間然スル所ナシ
ト謂フベカラズ然レドモ若シ罷除アラバ宜ク之
ヲ蔵フニ勲章ヲ以テスベシトヲ以テ英廷ヨリ
西方ニ七ヲ時ニ當リテ彼士丁克方ニ新帝国ヲ
東方ニ樹立シ英国ヲシテ権衡ヲ失ハサラシム
其赴任ノ時公司ノ権力方ニ安頴地方ニ限リ

彼士丁克ノ意ハ勢ヲ開土ノ政略ヲ遵ヒニ在リ
ヲ公司ノ権ヲ可度各処ニ張リ全州ノ大柄ヲ執
ラシメント期シ諸種ノ大難ヲ経テ終ニ其志ヲ
遂ルヿヲ得ヨリ其解職ノ時ニ至テ公司ハ印度
大洲ノ全主権ヲ収メ秩善徳千都督及ヒ孟買
諸主皆其威ヲ懼レ愛ヲ希ヒ争テ之ニ媚ヒ
ザル者無キニ至レリ且官下人民ノ畏敬并景
慕ヲ得ル未タ此人ノ如クナル者アラズ
百年ノ下人民尚其威徳ヲ称シ一尊碑ヲ
立丁、撒比伯原文義下キヿ
語次ヿノ通ニ及ベ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

バスズ容ヲ改メテ発言スルヿ
一千七百八十一年甲谷地（カルカッタ）ニ庶民書ヲ設ケテ審院ノ
事務ヲ議院ニ達スル印度
事務委員コレヲ受理シ其通當ナル（ボル）ヲ発ス陪児（ボルヂ）克實ニ委員ノ
議院ハ沖徳児（ハイドラバード）、亜爹（アルコット）大擧（カルナチック）的（タンジョール）ニ入来スト関キ
審ニ委員ヲ置キ孟（ボンベイ）ノ土是ガ総督ヨリ以テ其情
由ヲ探ルニ一千七百八十二年委員等ノ申告ヲ得ルニ及ン
デ孟（ボンベイ）土盛ニ動議ヲ起シ彼士丁（スチーブンス）克及ヒ瑪格剌（マクラン）
孟（ボンベイ）ノ両長官ヲ論リ其英國ノ声譽ト政略ニ又

スル措置ヲ考ヘ以テ禍ヲ印度ニ流シ公司ヲシ
テ巨萬ノ財ヲ費サシメタル罪ヲ以テ皆本国ニ
招還スベキヿヲ主張スル下議院乃チ其動議ヲ採用
シ公司ノ主理旨モ亦之ヲ賛成スル得リ林主旨中
當時ノ貴顕及ヒ諸大家アリテ彼士丁克ノ大勲ヲ深謝スベシト主張スル遂
ニ止ムヿ能ハズ戦争暗日孫久経費ヲ加リ蔵
ヲ告ゲ公司カ千國會ニ請ヘリ以テ一時ノ急ヲ濟フヿヲ得タリ然ニ西孟（ボンベイ）
委員ノ申告相継テ議院ニ達スル者ハ不利ノ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

事ニ係ル是ニ由テ國會ハ益公司ヲシテ
ハ弥〻勢ヲ揮ン事論皆印度政府當ニ改革スヘキ
ト噪々スルニ至レリ
内閣諸相結合シテ改革ヲ議スル其主任ハ哥老士家
ニ同僚陪児克(バルク)ガ草案ヲ發スル即チ英
名ナル印度政府改革案ナリ
一千九百十七年其略ニ曰
新ニ管理局ヲ置キ公司ヲシテ四年間印度政務
ノ全權ヲ擧ケテ之ニ委ヨ其局員ヲ七名ト
シ第一紀ハ國會ヨリ選任シ二紀ハ英帝ノ特
選ニ出ツ商務ノ如キハ公司ノ主理ル名ヲ以テ

之ヲ整理セシメントス是時公司ノ歳入大凡二億
洛比(ルピー)トス議者多クハ之ヲ内閣ノ手ニ委附セバ
或ハ公司ノ休戚ニ大害ヲ遺サントス主張シ主理
局ハ公司ノ将ニ滅ビントスルヲ恐レ内閣ノ意
公司ノ特許權ヲ傷ケルニ在リト声言シ福(ブラケット)ヲ
ノ形貌ヲ畫キ名ケテ猪洛汗(ボロカン)ト称シ大象ニ寫シテ
テ公司ヲ撃撲スル状ヲ寫シ以テ人心ヲ煽
動セントヲ謀ル福基士ノ議遂ニ下議院ノ賛
成ヲ得將ニ之ヲ實施セントス一遍奥(オク)ニ説ク者
アリ曰改革党方ニ不軌ヲ謀リ陛下

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

基士ヲ推載セントス帝乃チ憲法ノ推行ナヒ上院ニ諭シテ下院ノ決議ヲ否決セシメ改革ニ與ラス諸相ヲ黜ケ此内閣変更ニ因テ漲的首相ト四年歳的時ニ年二十四其新職ニ就クヤ首トシテ印度改革案ヲ草シテ曰勅命ヲ以テ管理局ヲ設ケ之ニ授クルニ元ノ印度ノ支配政務及ヒ出納ニ関スル一切ノ事務ヲ主宰スヘキ特権ヲ以テシ其下ニ掌秘事ヲ置キ長副長及ヒ公司主理局ノ名成人ヲ以テ之ニ充テ管理局ヲ輔ケテ他ニ

関スル一切ノ時務ヲ調理セシメ旧主理局員廿二名ヲ免シ其餘ハ皆任用セントス福基士ノ議案ハ全ク公司ヲ覆滅スルニ在リ覆的ノ議案ノヘマテスレハ公司ハ旧ニ依テ財政ヲ掌リ吏員ノ地位服飾等皆旧ノ如シ唯其主権ヲ失フテ英帝ニ稟スルノミ抹主局員廿二名招還ノ議起ルヤ敢テ下院ニ抗シ頗ル勢力ヲ振フト雖モ此ニ至テ全ク政事上ノ實力ヲ失ナヒ名ハ辯論討疑ノ許アリト雖モ其實ハ局ノ議決ニ係ル者一切千渉スルヲ得ス此新

因テ攻

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

取扱地ハ英國ノ声誉ト政略ニ及ス上、決ス以テ故ヲニ英權ノ皇張ヲ鄙度ニ沮碍シ、ン著ト謂フモ可ナリ

一千七百八十五年孟加拉(ベンガル)管理局長官トナリ首トシテ加拿的(カナダ)侯爵ノ事件ヲ治メ却(かえっ)テ其功ヲ掩蔽シテ大債ヲ起シ害ニ過ギ人謝銀ト非常ノ利子ヲ出スヿ久シ侯ノ政柄移テ瑪塔喇(マドラス)ニ帰スルニ及テ陋規(賄賂)厖内(ほうだい)ニ行ハレ騙詐権謀ノ儕トナリ公司ニ屬スル者ト否トヲ問ハズ農工商ヨリ議員ノ輩ニ至ルマテ競フテ償債ノ事ニ干渉シ相共ニ奇利ヲ博セントシテ彼此(かれこれ)ト加拿的ノ勢改ヲ修ヘ專ラ之ヲ用ヒテ神權(神権)ト折衝スルニ供セントス欲ニ日夜心思ヲ苦メ勞メテ此葛藤ヲ釀メントシテヲ謀ル因テ元金四分ノ一ヲ減シテ利子ヲ数月分ト限リ元利ヲ合算シ月賦償還ノ制ヲ立ツ債主等終ニ聽ヤズ魔的(マヒト)ノ印度議案中其ヤニ償還ノ要求ヲ拒ミ其當否ヲ明カニスヘキヲ載ス主理局大ニ喜ヒ直ニ検査ニ従事セントス欧(おう)文(ぶん)魔的(マヒト)ト称理長官ノ干渉ヲ禁シ検査ヲ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

稽テ又單ニ之ヲ清還スベシト主張ス
諸梵主說ニ公司ノ政務ヲ沮害スル
會ニ出スニ若リハ莫キヲ知ル是ニ至テ伽拿的
侯波兒孟買德ニ大金ヲ授ケ龍動ニ至テ其
謀ヲ行ハシム孟買德一社ヲ西門斯的ニ設ケ會
價ヲ騙テ延擧權ヲ購ヒ一千七百八十三年ノ公
巡ニ於テ議員八名ヲ出スヿヲ得より而シテ漢
參議ハ遂ニ内閣ニ舊メラレテ其直裁ヲ經孟買
德是ニ由テ六十洛克ニ減セサル巨利ヲ収ム其
間諸ノ私曲ナル措置事ヲ載セタル嫩陀士ニ出ルトキハ

有價ノ最モ重キ者其利ヲ合シテ二格洛兒半
ニ限ル公司五格洛兒ヲ費シテ終ニ之ヲ清還ス
トキハ大臣私ヲ營テ莫大ノ損耗ヲ公司ニ被テ
シムル事甚此類多シ
猶基士ノ印度議案ニ據レバ公司文武諸吏ノ梵
主ト貨路ノ結締スルヲ禁シ犯ス者一罪ニ非ス
脏的議案ニ此類ノ條款ヲ加ヘス故ヲ以テ伽拿
的侯及其處置ノ者未タ曾テ清還セスシテ又
新債ヲ起シ一千八百零五年ノ價還期限ニ至テ
債主等ノ需要スル所無慮三十格洛兒ニ大數ニ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

上レリ是ニ於テ国會ハ嚴密ノ訊察ヲ加ヘント
議決シ新ニ管理局ヲ置キ專ラ賢傍ノ
事情ヲ検察シ龍動ノ管理局ニ
ル者若シクハ不服ノ訴訟ヲ裁
後両局ノ事務遷延シテ五十年ノ久キニ
ニ「格洛児」ヲ貰スト雖モ終ニ其効ヲ奏シ
ニ「格洛児」ノ巨額ヲ減シテ僅ニ二格洛児半トス
ルヲ得タリ當時加拿的財政ノ権能ニ
シテ候ハ収納スル所及テ従前其主権ヲ有スル
牛耳リモ夥シク然レ共公司ノ負債主等利得ノ路ヲ

キヲ憂ヒ共ニ侯ヲ勧メテ国土回復ヲ管理局ニ
請ハレム公司ノ諸吏皆其不可ナルヲ知リ
社用サズ遂ニ是ヲ許スニ由テ侯ノ債主等最
モ冨利ヲ積テ瑪塔剌政府ハ則チ軍士ニ給セザ
ルヿ七月内外空耗シテ殊ニ
セリ 一千七百
八十五年

○第廿七編

○路徳哥龍死士
ハ徳哥龍ノ職ヲ辞スル
歟代テ路督ヲ攝ス 一千七百
八十五年

○賞祿爵戰
○議院ノ免負抹殺
抹克費冬廷初メ公

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

司ニ傭スル某艦ノ官長吏ヲシテ印度ニ入リ深
ク伽拿的侯ニ結ビ遂ニ仏人ノ欽差公使トナリテ
英國ニ帰ル濮剌普敷公其才ヲ愛シ擢テ瑪塔
剌ノ文吏ニ補ス纔テ孟加拉議員ニ累遷ス抹徒
撒尓孫在職廿二月大ニ財政ヲ釐改シ寄ニ歳賞
一格陞爵半ヲ有ノ是其功蹟ノ最モ著シキ者
トス

噌吒斯ノ戦又来印度ニ在勤ノ吏員ヲ遣ヒテ総督
ニ任スルヲ常トス其土俗ニ通達スルト其政務
ニ慣熟スルノ二事甚タ便且利ナリト雖モ此利
便ハ往々其交遊間ノ阻礙ト従前同等ノ地位ヲ
占メル人ヲ今日ニ御スルノ難勢トニ勝ノ能ハ
ザル寄ニ十分ノ力ヲ伸シ得ザルノ憂アリ管理局
長カ印度ニ於テ親傭用スル累ナキ高位ノ貴族
ヲ選テ之ニ任セントスルヤ一千七百八十六年路
徳、華斯徳納擢テ印度総督トナル
事ニ因テ盟約ヲ結ハントスル寄メニ
忌テレテ官ヲ免ス同年九月路徳奇龍氏ヲ
総督職ヲ拝ス斯テ約克墅ノ
米利堅元帥華盛頓ノ轅門ニ降リ英国ヲシテ米

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

利歴別ヲ署フノ辱ヲ異日ニ剔致スル者有ルヲ慮度ノ大柄ヲ授ケラレ印度ヲ持スル者（被仕ケル）方ニ沿通ヲ誤ンノ罪ニ坐シ極刑（ニ）（ヲ）苦責ニ斃レリ人事ノ変誠ニ是ノ如キ者アリ（ヤ）奇龍毛士（ノ）職ニ就リヤ事皆順境ニ向ヒ夫ノ（ヲ）（ヲ）（ヲ）

此際ヲ矯正シ若シ命ヲ奉セズンハ印度政権ヲ挙テ盡ク英廷ニ収メン勢ヲ示ス故ニ其始テ仰ケル度ニ入ルヤ往来ノ姦謀虎視耽々タル政府ノ体面一時ニ上レリ

哥羅吃士(カルカッタ)赴任ノ来ヨリ年事ヲ匡撃ノ事ニ従フ益々其撃ノ由テ来ル所ヲ推スニ第一主理局ノ困弊更ニ制セン夫ノ俸給ヲ減サフレテ不時ノ特賜ヲ許容スルニ起ル此レ俸給ハ局ヨリ出テ時賞ハ人民ノ慮裏ヨリ出ルヲ以テナリ局ヲ観ル冨ヲ英国ニ帰スル者皆疫癘ナリ貧シテ帰ル者官吏ハ一割二分ノ利ヲ以テ官金ヲ貸与ス局ヲ其歴幸二人ニ命シ兵二大隊ヲ編セシム二人既ニ士幸ノ俸給ハ収領スル隊兵尚ホ簿上ニ在ルノミ地租徴収吏ハ邑重(マジストレート)ノ権ヲ兼帯シ種々詐偽ノ名称ヲ主テ冨ヲ積ム(白耶士(ベンガル)庁ノ駐剳公使月俸僅ニ一千児(ルピー)ニ過ズト雖モ其實ハ一歳四洛克(ラック)ヲ得ル

トカ

埼龍死士力ヲ極メテ此類ノ悪弊ヲ正シ私ノ
訴ノ事鎖細隠蔽ト雖モ勉テ遺スコトナシ最
モ意ヲ不當ノ結約及ビ賄銀ヲ受ケテ代辨ヲ業
トスル者ニ留ム當時在朝ノ有力者往々己ノ眷
属及ヒ姻親ヲ擧ケテ印度ニ官仕セシメ甚シキ
ニ至テハ學ニ博シテ賄ヲ出スコト能ハザル者ヲ
任用ス奇龍死士斷然此弊ヲ除ケント朝ニ敢テ
皇太子ノ薨擧狀ヲ郤ケンニ至ル焼茶伯及ビ彼士丁
統暗風ニ適當ノ俸給ヲ與ヘズシテ人ヲ任用ス
ルニ旬月ノ間ニ富ヲ致シ僕ベキ要職ヲ以テス
ルノ甚ダ理財ノ道ニ悖ルヲ知リ屢之ヲ主理局
ニ建言スト雖モ終ニ矯正スル能ハズ奇龍死士
ニ至テ僚ヲ權威ヲ藉ヘテ其利害ヲ妙言シ主理
局モ亦終ニ之ヲ暁テ然後ニ官途始テ清廉ニ帰
又再來政局益開ケ此弊漸リ美良ヲ加ヘ現今ニ
至テ印度官途ハ實ニ施政ノ模範トナリ其庶正
ニ施政ノ根基ヲ固ムルニ與テ力アリシ者ト謂フベシ
同氏侯先年又來屬公司ノ成矣ヲ廢セント請フ
此ニ至テ八千七百十六年又公司ノ兵其各地ニ成ハル
者ヲ解キ以テ支給ノ費ヲ免ル、レント請フ時ニ

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

晋若ハ方ニ興都斯坦ノ地ヲ梵食シ此ノ碁部ノ勢亦
除ク盛ナリ奇龍尼士戎兵ヲ招還スルノ基メ危険
ナルヲ知ル因テ阿泥ノ支給ヲ二分ノ一ニ減シ
戍卒ヲ置クノ丁ホノ如シ将校ノ阿泥ニ在ル者英
国ノ威力ヲ恃シ驕傲貪婪至テサル所ナシ侯之
ヲ憂ヒ又紘督ニ白テ其侵暴ヲ免ルヽヿヲ得
メリ佐官班泥モ亦戍将ノ中ニ在リ一二年間ニ
於テ債ヲ積ムヿ無慮三十洛克ニ及ベリ侯嘗テ
重賂ヲ班泥ニ贈リ請託スルヿ数次班泥カ之ヲ厭
棄人ヲ論ゼズ一切債主ノ要求ヲ容ケ施テ採用
セズ阿泥侯是ニ由テ加孚的侯ト同一ノ禍ヲ免
ルヿヲ得ル班泥貪婪度ナシ紘氏亦侯ヲ諫メ説言スルヿ
所アリ侯演荒政事ヲ務メスル重リ下ニ取テ自テ
養フ故ニ地主ハ其借地人ニ過取シ大臣百司亦下ニ
過取シ大臣百司亦下ニ奪テ蓄積スレバ侯
即チ之ヲ過取シテ逸楽ニ浪費シ上下交貧テ罪
ヲ得ルヿ所ナシ

徳干都督ノ公司ト約ヲ結ビ其弟波撒洛、威洛
ノ兄俊ガ狼鴉児郎ヲ譲畔スルヿヲ汲テス一千七百
八十二年波撒洛兄ニ及デ都督約ニ背キ敢

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8
ガラス使用

テ予ヘズ奇龍毛士（ルワリス）先年主理旬ニ刑ヲ告ル時必ズ此厚ヲ要求スベキヲ嘱セテん一千七百八十八年兵ヲ発シテ其国疆ニ逼マレメ駐剳公使ヲシテ都督ヲ要スんニ履約ノ事ヲ以テス都督報セテ之ヲ許シ奇龍毛士ニ謂ハレメテ曰予深ク公司ノ等シク條約ヲ履行スんヲ信ジ今謹テ艮嶋（カントー）児郡ヲ致スト所謂公司ノ約ス㐧所トハ都督ノ命至ルヲ待テ歩卒二大隊大砲六門ヲ発シテ其急ヲ救フヘシ且往年佛徳児（ハイチ）ノ寄ニ略取セラレメん伽拿的（カルナチク）ノ地方ヲ取テ都督ニ還附スベレト云フニ在リ都督素ヨリ反覆常ナシ疏ニ使節ヲ公司ニ遣シ又人ヲ遣シ倶ニ英人ヲ擯ント請フ秋（イングリス）国テ其女ヲ娶テンコトヲ求ム都督自テ韃靼種ノ曹ニシテ琳基（リンケン）ノ後ナんヲ以テ相婚スんヲ欲セズ是ニ由テ合従ノ議破ルヽ及テ怨隙ヲ生ズ

一千七百九十八年以後公司再ビ厚（ルワリス）ト盟約ヲ締シ今又原約ヲ履テ徳千（ドイツ）主ニ兵ヲ仮サバ以ズ大難ヲ来メサン然レ氏徳千主若シ破レテ秩

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用

普ニ降ラバ公司ノ不利実ニ名ナリ奇龍兎士顧ミ其措置ニ苦ミ遂ニ策ヲ決シ青ヲ徳干主ニ寄セテ曰今盟約ニ従ヒ貴國ノ兵ヲ假テ共ニ逐拉頴多ヲ復セン且兵衆一隊ヲ発シテ君ノ征行ニ従ヤハシトメン請フ之ヲ用テ吾同盟國ヲ撃ツ勿レト因テ間後ニ鄰盟諸國ヲ列記シ故テニ買蘇爾ヲ載セズ秋普之ヲ聞キ大ニ怒リ乃チ奇龍兎士徳干ト合従シ共ニ吾國ヲ分取セント欲シ南ノ衆ヲ聚テ直ニ戰ノ備ヲ修ム

一千七百八十九年

容拉蒲格耳ハ抹拉巴海岸西迤ノ一小國ナリ蔓蒲格路盟約ニ依テ英國ノ保護ニ係セント欲シ南ノ衆ヲ聚テ進攻ノ具ヲ修ム茲拉萬格耳刺沙之ヲ知ン乃チ力ヲ防禦ニ傾ケ和蘭佗植民地ノ二邑ヲ購フテ自ラ固フス秋普之ヲ要求シテ曰二邑ハ吾隷係ノ舊可称主ノ所領ナリ今之ヲ吾ニ還セト刺沙可セズ遂ニ之ヲ絶聲麻ニ詰フ奇龍兎士瑪路刺麻ニ命シ刺沙及秋普ニ諭シテ曰二邑真ニ和蘭佗ノ舊邑ナリトセバ余當ニ刺沙ヲ助ケテ之ヲ奪メシムベシ刺沙ハ之

国立国会図書館　印度史 6巻　特1001-8

ガラス使用